

平成 25 年度 調査研究

学校間の接続に関する調査研究

---

# 音楽

埼玉県立総合教育センター  
教育課程担当

# 【音 楽】

## 1 調査研究の視点

音楽科の現状として、小中の接続においては教師の指導力の差や学校行事の関係で歌唱や器楽が中心となり、創作や鑑賞の学習がバランスよくできないなど様々な課題があると考えられる。また、高校では指導した内容が素直に受け入れられ学習が成立する場合とそうでない場合があり、教師の指導力の向上や生徒の興味・関心を高める魅力ある教材の開発が求められる。

こうした現状を受けて本研究の1年目は、共通調査や質問紙調査を実施し、児童生徒の音楽に対する意識調査を行った。その結果、小中では、音楽から知覚・感受したことを言葉で表すことが苦手な児童や、変声期に入り歌うことが恥ずかしいなど悩みをもつ生徒がいることがわかってきた。また、高校では、原語による歌唱に戸惑いがある生徒がいることがわかってきた。

2年目は質問紙調査等から明らかになってきた内容をもとに、各校種で検証授業を実施し、児童生徒の音楽の授業に対する不安等を取り除けるように指導改善を探っていく。また、各校種間の接続が円滑となる手立て等を提案し、各校において音楽の授業で実践できるようにしていく。

## 2 研究テーマ

音楽科における学校間の円滑な接続に関する調査研究  
～小・中・高の系統的音楽科教育への課題と展望～

児童生徒が授業で不安を感じていることをもとに、各校種の接続において円滑となる指導方法を工夫改善していくことが、これからの音楽科教育の課題であると考え、上記のような研究テーマを設定した。

## 3 昨年度の取組

### (1) 共通調査と質問紙調査（音楽）から

共通調査の音楽の授業に対する意欲的や理解度をはかる質問では、「意欲的」「理解している」と答えた小6～中3の児童生徒は7～8割であるのに対し、高1では6割に減少していた。また、音楽の授業で実施した質問紙調査では、楽しく学習に取り組んでいる児童生徒が多い反面、感じたことを言葉で表すことや歌うことを不安に感じている、リコーダーの運指で悩んでいるなど具体的なことがわかってきた。

### (2) 今後の方向性について

共通調査や質問紙調査からわかってきたことをもとに、次年度は以下の検証授業等を実施し、各校種間で有効な指導法の工夫改善についてまとめ、今後の授業で取り組んでほしいことを提案する。

- ① 鑑賞の視点を明確にした指導方法の工夫改善
- ② 変声期に入った児童生徒への指導方法の工夫改善
- ③ アルトリコーダーの指使い等の指導改善
- ④ 原語による歌唱指導の工夫改善

## 4 本年度の取組

### (1) 鑑賞の視点を明確にした指導方法の工夫改善

#### 《音楽の特徴やよさを言葉で表現する鑑賞指導》

##### ① H24 質問紙調査からわかった課題

平成24年度に実施した質問紙調査結果から、小学校の段階では、言語表現そのものに苦手意識をもっている児童が多いということがわかった。

具体的には、音楽から知覚・感受したことを表すために、どのような言葉を用いればよいのか戸惑っている児童が見られる。鑑賞の授業を行う際は、ねらいを精選し、鑑賞の視点を明確にするとともに、知覚・感受したことを表すための語彙を増やすなどの手立てを取り、児童の学習意欲を高めることが必要である。

##### ② 検証のための手立て(方法)、手立てを行うために工夫した点

- ア 3分間の即興的な旋律づくり
- イ 同一楽曲(異演奏者)の比較鑑賞
- ウ 音楽を色で表す活動
- エ 学習カードの工夫
- オ ICT機器の活用を図った板書の工夫

##### ③ 検証から見えてきたこと、わかったこと(一部抜粋)

音楽を色で表す活動は、鑑賞の視点を明確にするための仕掛けであったが、イメージした色の理由を教師が問い返すことにより、児童一人一人が音楽を形づくっている要素の関わり合いや違いを意識し、音楽を自分なりの言葉で表しながら楽曲の特徴やよさを理解することができた。実際の児童の学習カードには、「Bの曲は、ゆったりとした歌い方で、お腹に響くような感じでした。音楽から、さみしい夕焼け空の様子も思い浮かんだので、オレンジ色のイメージです。ぼくは、Aの曲の歌い方がなめらかで、明るい感じで好きだなと思いました。」という内容の記述もあり、音楽を形づくっている要素を感じ取り、イメージ(色)から根拠をもって音楽を言葉に表現する活動には効果があることがわかった。

しかしながら、児童にとって、音や音楽を内面で感じとり、それを言葉にするのはとても難しい作業である。だからこそ、音楽科の授業では、児童の言語を引き出すアプローチ(学習活動)の工夫をすることや、児童の音楽的感受を刺激しながら、言葉が生まれるまでの「待つ余裕」も必要であることを改めて感じた。

#### 《表現と鑑賞の関連を図った指導》

##### ① H24 質問紙調査からわかった課題

「鑑賞で感じ取ったことを表現で生かすようにしているか」という設問では、肯定的な回答の割合が小6は20.2%、中1が51.2%となっている。一方、否定的な回答は小6で80%、中1では48.8%であり、鑑賞で知覚・感受したことが表現活動に生かされていないということがわかった。課題として、学習内容を明確にするとともに、[共通事項]を支えに教師が「何を教えるのか」を意識して指導することがあげられ、鑑賞で知覚・感受した内容を表現に結びつけていく指導が必要であると考えられる。

##### ② 検証のための手立て(方法)、手立てを行うために工夫した点

- ア 指導計画の工夫…表現－鑑賞－表現という指導計画を立てる。

- イ 鑑賞の視点を明確にした指導…反復、音の重なり、音色、強弱に限定し比較鑑賞する。
- ウ ワークシートの工夫…表現に生かしたいことが記述できるようにする。
- エ 鑑賞教材及び音源の選定の工夫…鑑賞の視点がわかりやすい教材及び音源を選択する。

### ③ 検証から見えてきたこと、わかったこと（一部抜粋）

児童に行った質問紙調査において「鑑賞で感じ取ったことを表現で生かすようにしているか」という設問に対する肯定的な回答の割合は、授業前より授業後の方が高くなったことから、表現と鑑賞の関連を図った指導計画を工夫することが有効であるといえるであろう。

表現活動の間に鑑賞を入れ、表現－鑑賞－表現という指導計画を立てたことにより、表現のための鑑賞というねらいが明確になり、意欲的に鑑賞活動に取り組めた。表現活動においても視点を与えずに「表現を工夫しよう」と児童に投げかけるよりも鑑賞で知覚・感受したことを生かし、旋律やリズムの重ね方や強弱を工夫して表現しようと投げかけた方が工夫の視点が明確になった。また、表現活動の自己評価、相互評価においても視点が明確になり、評価能力の向上も見られた。鑑賞教材については、旋律の反復、旋律やリズムの重なり、強弱の変化がわかりやすいものを取り上げ、さらに2種類の音源を比較鑑賞したことで、児童が変化した要素に気づき、具体的にどのように変化しているかにも気づくことができた。

#### 《小中の接続期において円滑となる有効な指導》

題材全体の中で鑑賞の活動をどの場面に位置付け、知覚・感受したことをどのように表現の活動に生かしていくのか。また、鑑賞の活動では短い時間でも効果的に知覚・感受できるような活動の工夫を考えて授業構成をすることが必要である。音楽を聴いて感じ取ったことは、言語活動の深まりから児童の音楽表現への創意工夫を深める。また、表現の技能にも生かされ、聴き方の工夫をすることで鑑賞の能力にも繋がることを意識し、意図的な指導計画から学校間の系統的音楽学習の実践をしていくことが大切であろう。

## (2) 変声期に入った児童生徒への指導方法の工夫改善

### ① H24 質問紙調査からわかった課題

「変声期中の歌唱活動には、どのように参加したか」では、「歌わなかった」と回答した小6が11.4%であった。教師は、「高い声のまま」「低い声のまま」など歌いやすい方を歌わせているが、「低い声のまま」と回答した小6が37.1%で中1の28.9%を上回っている。これは、小6で変声期に入ったことで声を出すことが恥ずかしくなったのではないかと考えられる。また、「歌いたくない時期」については、小6が「小6」と答えた21%と、中1が「小6」と答えた18.3%は数値的に近いと言える。これは、歌いたくないのは、変声期が原因の一つと考えられ、小学校高学年から中1の変声期中の歌唱活動をうまく乗り越えることが大切であると考えられる。

### ② 検証のための手立て（方法）、手立てを行うために工夫した点

- ア 中1生徒への質問紙調査からの実態調査をする。
- イ どういう点で困っているのかを明確にする。
- ウ 困っている点を改善できる授業展開の工夫（アンサンブル活動を通じて）
- エ 曲種に応じた発声についての授業展開の工夫（日本の民謡を用いて）

### ③ 検証から見えてきたこと、わかったこと（資料参照）

#### ④ 小中の接続期において円滑となる有効な指導

本研究の授業実践前にとった質問紙調査では、生徒が困っていることとして、「歌が下手になったように感じる（音程が取れない。」「声がかたく伸ばせない。」「歌いにくい。」「音が合っているかどうかわからないから自信がない」ということがあげられる。

今回の調査においては、以下の3点から困っていることへの改善方法をまとめた。

ア 小学校の既習曲で、自信をもって歌える曲として「こげよマイケル」の授業検証を行った。旋律に自分の歌いやすい音域で和音を付けてアンサンブルを楽しむ活動をする。その際、同じ音を歌っている生徒を近くにおき、安心して歌える環境をつくることが大切である。

イ 曲種に応じた発声にも注目し、「秩父音頭」を用いた授業を展開した。中学校で初めて地声で歌う活動をしたことから、新鮮な気持ちで意欲的に取り組む男子生徒が多かった。地声で伸び伸びと歌う活動は、変声期の男子でも受け入れやすいものであったので、小学校でも地域の民謡などを歌う活動を取り入れても効果的である。

ウ 中学入学の4月当初において、音声や映像資料を用いて変声にかかる期間や音程の広がりなどの変声期の正しい知識を持たせる。また、中学校の合唱祭に小学生を招待し、中学生の歌声の違いを感じさせることで、低い声への憧れを持たせたり、不安を取り除くきっかけとなる。また、授業の中で、高校生の完成された混声合唱や男声合唱などを聴く機会を与え、多様な合唱を聴き比べることで子供たちへの意欲付けにもつなげたい。

### (3) アルトリコーダーの指使い等の指導改善

#### ① H24 質問紙調査からわかった課題

「アルトリコーダーの指使いを覚えるのが大変でしたか」という質問では、「そう思う」「わりとそう思う」と答えた生徒が65.4%であり、生徒にとって新たに指使いを覚えることが一つの壁になっていることがわかった。また、「どのように覚えたか」の質問に対しては、「指番号を使っている」がほぼ半数で、次いで「ソプラノリコーダーの指に置き換えている」が3割弱、「まだ混乱している」「覚えられない」が2割弱であった。

「器楽の教科書を開き、アルトリコーダーの指使いを学び、簡単な楽曲から取り組む」というプロセスは、教師の側から考えれば“あたりまえ”のことであるが、授業を受ける生徒の多くは、「指使いを覚える」のが苦手であり、また、「音符（リズム）を読む」ことに苦手意識をもっている。読譜指導は、器楽だけでなく音楽の学習全般を支える基礎であるので、これらを効果的に学ばせていきたい。

#### ② 検証のための手立て（方法）、手立てを行うために工夫した点

ア 小学校でのソプラノリコーダーを使った器楽学習の実態を知るために、新たに、小学校時のソプラノリコーダーの取り組みについてのアンケートを行う。

イ アンケート結果を基に、「読譜力向上」と「アルトリコーダーの指使いの指導改善」の2つの内容について指導計画を立て、授業実践に当たる。

#### ③ 検証から見えてきたこと、わかったこと（資料参照）

#### ④ 小中の接続期において円滑となる有効な指導

ア 読譜力向上の取組

4拍のフラッシュカードを作り、常時活動として授業のはじめに取り組む。方法は、リズムを声に出して読む（歌う）、手拍子でリズムを叩く、手と歌を一緒に行う、という手

順で、毎時、1～2種類のリズム学習を行う。

さらに、記号の読み取りに関しては、教科書にある記号をマグネットシートに貼り、楽譜を使う時に、いつでも黒板で確認できるようにする。これは、読譜指導を単なる「音符を読む」だけの指導で終わらせないことと、生徒が楽曲に対峙した時、自分の思いや意図をもって表現できるようにするための準備となるからである。

イ アルトリコーダーの指使いの指導改善

第1学年で、アルトリコーダーを使った器楽学習7時間計画（これまでは1学期5時間、2学期2時間扱いで行ってきた）を、指導内容に応じて分割して取り組む。これにより、アルトリコーダーに触れる機会が増え、指使いの定着が確実なものとなる。

#### (4) 原語による歌唱指導の工夫改善

##### ① H24質問紙調査からわかった課題

「上級学校に進むと授業が難しくなるのではないかと不安になる」という質問に対し、中3は6割の生徒が、高1では6割強の生徒が「そう思う」と答えている。この不安の中心が一体どのようなことなのかを改めて高校1年の1学期の授業で生徒に調査した。その結果、歌唱に関する内容として「外国語の歌唱が増えた」「イタリア語の発音に戸惑った」「歌の高音域が増えた」等、言語と音域に関する内容が多数見られた。このことから、言語の発音練習と歌唱の音域を中心に工夫改善を考えた。

##### ② 検証のための手立て（方法）、手立てを行うために工夫した点

ア 発音練習の工夫・・・ホワイトボードの活用

イ 音取りの工夫・・・教科書の楽譜よりも低い音域で譜読み

ウ 効果と問題点の考察

##### ③ 検証から見えてきたこと、わかったこと（資料参照）

##### ④ 中高の接続期において円滑となる有効な指導

音楽では安心して授業に参加できる環境づくりが大切である。高校入学時は友人も少なく、人間関係も希薄である。高校1年の1学期は中学校までに歌い慣れた楽曲や日本語の楽曲を中心に学習する中で、大きな声で伸び伸びと歌える雰囲気づくりに力を注いだ。その後、原語による歌唱など難しい内容に移っていくことが有効である。また、可能であれば「Edelweiss（英語）」「O sole mio（伊語）」など原語の歌唱を中学校の授業でも学習し、その経験が生徒の言語による歌唱に対する不安を軽減させることにつなげていけるのではないかと考えた。

原語の歌唱には言葉そのものの特殊性だけでなく、日本語の歌唱とは違い、ひとつの音符に複数の子音と母音が含まれることが多い。そのため、言葉に対する不安を取り除くことは重要であり、またそれができるようになり自由に表現できたときの喜びや達成感はとても大きなものになる。このことは生徒の感想や表情からもうかがえた。

今回、「原語による歌唱指導の工夫改善」において、発音練習の工夫と音取りの工夫の2点に絞って検証を行ったが、言語歌詞の朗読視聴、語学講座の視聴等も言葉の響きに慣れる点では有効な手段ではないかと考えた。

## 5 本年度の成果と課題

### (1) 成果

#### ① 小中の接続期において

鑑賞の視点を明確にした授業を展開するために、題材全体の中で鑑賞の活動をどの場面で位置付けるのかを指導計画に組み込むこと、短い時間でも効果的に知覚・感受できるような活動の工夫を考えて授業構成をすること、児童の言語を引き出す学習活動の工夫が大切であることがわかった。

変声期に入った児童生徒へは、音程が取れる子の近くで一緒に歌わせたり、民謡など地声でも伸び伸びと歌わせたりするなど、安心して歌える環境をつくることが大切であることがわかった。

アルトリコーダーの指導では、導入時にフラッシュカードを使ってリズムを読むなど楽譜に慣れさせたり、指導計画を工夫してリコーダーの学習を定期的に、あるいは常時活動として取り入れることで、リコーダーに触れる機会を確実に増やしていくことが大切であることがわかった。

#### ② 中高の接続期において

高1の1学期は、中学校までに歌い慣れた楽曲や日本語の楽曲を中心に学習する中で、大きな声で伸び伸びと歌える雰囲気づくりが大切であることがわかった。その後、中学校で学習した原語による歌曲から始め、歌唱に対する不安を軽減させることが大切であることがわかった。

### (2) 課題

#### ① 小中の接続期において

鑑賞の指導では、鑑賞に用いることのできる語彙を増やしたり、知覚・感受させたい要素を気付かせたりするために、教材や音源を選択したり、教師が意図的に発問するなど様々な課題がある。また、変声期の指導では変声期を乗り切るまでの配慮や曲種に応じた発声について教師が教材研究を重ねていくことが必要である。さらに、リコーダーでは、毎時間の導入など常時活動として取り入れるためには、本時の展開との時間的なバランスを考えるなど、綿密な指導計画の作成が必要である。

#### ② 中高の接続期において

雰囲気づくりによって安心できる環境をつくったあとは、音楽のよさや美しさを味わったり、豊かな音楽表現を工夫する学習など、音楽の本質にせまる学習が必要である。

## 6 研究のまとめ

各検証授業の結果から、指導計画や指導方法の工夫改善が大切であることが改めてわかった。また、音楽は一人一人が声に出して歌ったり、楽器を演奏することで表現方法を工夫したり、互いのよさを認め合い、学級全体で学習を深めたりしていかなければならない。そのためには、児童生徒の心の中に一抹の不安があってはならない。伸び伸びと歌える雰囲気づくりや安心して学習できる環境づくりが大切である。そうしたことを踏まえて、教師は児童生徒の実態を適切に把握し、その対応策をしっかりと考え、指導計画や授業展開を工夫改善していくことが大切である。また、教えて考えさせる授業、考えて表現する授業を展開しながら、児童生徒が楽しみながら音楽のよさや美しさを実感できるようにすることが必要である。

## 【音楽 資料編】

### 1 本年度の取組

- (1) 鑑賞の視点を明確にした指導方法の工夫改善
- 《音楽の特徴やよさを言葉で表現する鑑賞指導》・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 《表現と鑑賞の関連を図った指導》・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 変声期に入った児童生徒への指導方法の工夫改善・・・・・・・・ 7
- (3) アルトリコーダーの指使い等の指導改善・・・・・・・・ 1 1
- (4) 原語による歌唱指導の工夫改善・・・・・・・・ 1 4

### 2 本年度の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 7

### 3 研究のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 8

### 4 学習指導案等の資料

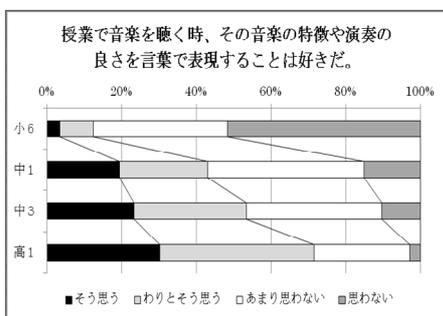
- (1) 《音楽の特徴やよさを言葉で表現する鑑賞指導》
- 題材名 「言葉と音楽の美しさ～日本歌曲『待ちぼうけ』に親しもう～」・・・・ 1 9
- (2) 《表現と鑑賞の関連を図った指導》
- 題材名 「いろいろなひびきを味わおう」・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 1
- (3) 《変声期に入った児童生徒への指導方法の工夫改善》
- 題材名 「アレンジを工夫してアンサンブルを楽しもう」・・・・・・・・ 2 5
- 題材名 「日本の民謡に親しみ、声や音楽の特徴を感じ取ろう」・・・・ 2 7
- (4) 《原語による歌唱指導の工夫改善》
- 題材名 「ドイツ歌曲に挑戦」・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 1
- (5) 《アルトリコーダーの指使い等の指導改善》のアンケート資料・・・・・・・・ 3 3

# 1 本年度の取組

## (1) 鑑賞の視点を明確にした指導方法の工夫改善

### 《音楽の特徴やよさを言葉で表現する鑑賞指導》

#### ① H24質問紙調査からわかった課題



この質問では、肯定的な回答の割合が小6では12.4%と低い。中1では43%、中3では53.4%、高1では、71.5%と学年が上がるにつれて高くなっている。

小学校の段階では、言語表現そのものに苦手意識をもっている児童が多いと考えられる。

具体的には、音楽から知覚・感受したことを表すために、どのような言葉を用いればよいのか戸惑っている児童が見られる。

鑑賞の授業を行う際は、ねらいを精選し、鑑賞の視点を明確にするとともに、知覚・感受したことを表すための語彙を増やすなどの手立てを取り、児童の学習意欲を高めることも必要である。

#### ② 検証授業 (熊谷市立妻沼小学校・第5学年)

題材名 言葉と音楽の美しさ～日本歌曲『待ちぼうけ』に親しもう～

目標 音楽を形づくっている要素が醸し出すそれぞれの曲想の違いを感じ取り、楽曲のよさを味わって聴くことができる。

本題材は、主に学習指導要領B鑑賞ア「曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。」、ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。」に関連し、言葉と旋律が一体となって生み出される日本の歌曲の美しさを味わうことをねらいとしている。高学年の児童は、音楽を聴いた自分の感じ方、考え方を深めながら、音楽全体を味わって聴くようになる。全体の曲想や、音楽を形づくっている要素との関わり、歌声の響きの特徴などにも意識を向けた鑑賞活動を進めていくことが大切である。

#### ③ 検証のための手立て(方法)、手立てを行うために工夫した点

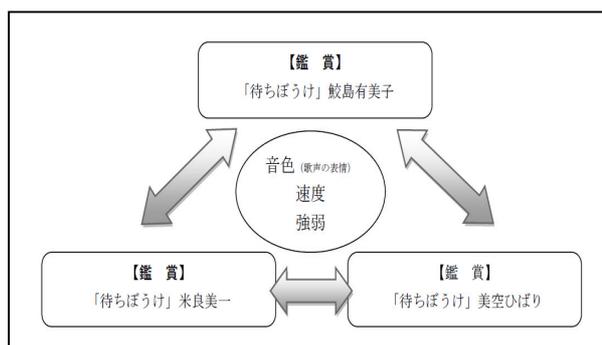
##### ア 3分間の即興的な旋律づくり

『待ちぼうけ』を扱った鑑賞の導入では、「待ちぼうけ 待ちぼうけ」の歌詞の反復や言葉のイントネーションをポイントとし、鍵盤ハーモニカを使って3分間の即興的な旋律づくりを行った。児童の様々な発想や音楽表現を認めるようにするとともに、作曲者山田耕筰の楽曲に対する興味・関心を高めるようにした。

また、1/2時間目では、曲想を捉えることや歌詞の表す情景の理解、楽譜を提示して実際に歌う活動などを行い、楽曲に親しむことをねらいとし、歌唱活動を取り入れた。

##### イ 同一楽曲(異演奏者)の比較鑑賞

「音色」(歌声の表情)や「速度」など、演奏者の異なる『待ちぼうけ』を比較鑑賞し、音楽を形づくっている要素の違いに気付くことができるようにするとともに、同一の楽曲でありながらも曲想が異なって聴こえる面白さを感じ取れるようにした。



## ウ 音楽を色で表す活動

色カードの選択により、「どうしてその色をイメージしたのか」という理由について、音楽を形づくっている要素を根拠としながら、感じ取ったことやイメージに関する発言を引き出すようにした。

同じ曲でありながらも、速度や強弱の違い、歌唱表現の仕方の違いにより楽曲全体の曲想も異なって聴こえる面白さに気が付けるようにした。



## エ 学習カードの工夫

児童が鑑賞活動へ進んで取り組めるようにするとともに、Aの曲とBの曲を整理して比較しやすいような学習カードを作成した。

下段にある枠内には、自分がイメージした色を色鉛筆で塗るようにし、その理由については、音楽を形づくっている要素（速度や強弱の特徴など）から感じ取ったことを記述できるようにした。



## オ ICT機器の活用を図った板書の工夫

同一曲の比較鑑賞から、音楽を形づくっている要素の違いを整理して板書することで、児童の感受や思考を視覚的に理解できるようにした。ICT機器の活用を図り、本時の課題にせまるよう意図的・計画的に板書展開を行った。

同じ曲なのに、ちがって感じるのはなぜだろう？  
～「待ちぼうけ」のひみつをさぐる～

山田耕筰



今日は2人の歌う『待ちぼうけ』をきき比べ、違いを感じ取っていただきたい。  
同じ曲でありながら、何が違うのか。  
さあ、みなさんには、おわかりになるかな？

12色の中からイメージしよう



<p><b>Aの曲</b></p> <p>○○色 ○○色</p> <p>高い歌声 すき通る 感じ 全体的に 速い 歌詞や様子 を伝える強 弱変化</p>	<p><b>色イメージ</b></p> <p>音色</p> <p>速度</p> <p>強弱</p>	<p><b>Bの曲</b></p> <p>○○色 ○○色</p> <p>低い歌声 おなかに ひびく ゆっくり した速さ 歌い方に 特徴があ る</p>
--	---	---

## ④ 検証から見てきたこと、わかったこと

音色（歌声）、速度、強弱の付け方等、音楽を形づくっている要素の特徴が異なることで、同じ楽曲でありながら、雰囲気が異なる面白さを感じ取ることをねらいとしている。

指導改善におけるポイントとしては、曲想からイメージした色を12色のなかから自由に選択できるようにした。



色カードの活用は、活発な言語活動へのひとつの仕掛けであったが、選択した色イメージの理由を教師が問い返すことにより、音楽を形づくっている要素の関わり合いを含めた話し合いを深めるきっかけをつくることができた。

また、活動の中で、それぞれが異なった色イメージを発言し合った場面では、児童も互いに驚いた様子で、音楽を聴いた個々の感じ方は違うということも理解することができた。

実際の活動場面では、Aの曲（米良美一による歌唱）の鑑賞では、水色や黄緑色をあげる児童が多く、「テンポが速い」「透き通った歌声』『「しめた」という歌詞の部分の歌い方に主人公の気持ちがかもっている。』など、歌唱表現の特徴なども感じ取って聴いていた。

一方、Bの曲（美空ひばりによる歌唱）の鑑賞の場面では、オレンジや赤、茶色のカードをあげる児童が多く、「Aの曲と比べて、全体的にテンポがゆっくりだった。」の他に「音（歌声）が伸びていた。」「おなかに響く歌声」などの発言も見られた。

児童の学習カードには、「Aの曲は全体的にテンポが速く、歌声が軽やかな感じがしたので、水色のイメージです。部分的に強弱が付けられているところもあり、物語の様子が伝わってきました。」「Bの曲は、ゆったりとした歌い方で、お腹に響くような感じでした。音楽から、さみしい夕焼け空の様子も思い浮かんだので、オレンジ色のイメージです。ぼくは、Aの曲の歌い方がなめらかで、明るい感じで好きだなと思いました。」という内容の記述もあり、音楽の諸要素を感じ取り、イメージ（色）から根拠をもって音楽を言葉に表現する活動には効果があることがわかった。

音楽科の学習において、児童から発せられる言葉は、多かれ少なかれ、体の動きや音や音楽のイメージなどと結びついているものであり、これらのニュアンスを、言葉を媒介にして交流させることが、音楽科における言語活動の面白さであると思う。

音楽科における「言語活動」とは、あくまで表現や鑑賞の学習内容を深める目的で行うものであり、音楽から切り離された「話し合い活動」は、音楽科本来のよさや楽しさが見失われてしまう。音楽の授業では、「(言葉で) 表す」ことと、「(音や音楽で) 表現する」ことが相関関係でなければならない。しかしながら、児童にとって、音や音楽を内面で感じ取り、それを言葉にするのはとても難しい作業である。だからこそ、音楽科の授業では、児童の言語を引き出すアプローチ（学習活動）の工夫をすることや、児童の音楽的感受を刺激しながら、言葉が生まれるまでの「待つ余裕」も必要であることを改めて感じた。

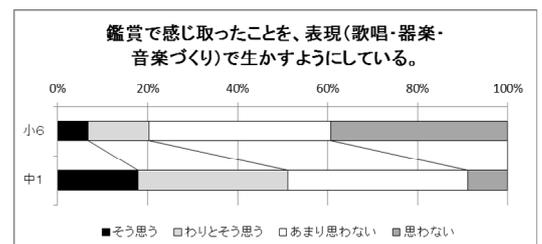
## 《表現と鑑賞の関連を図った指導》

### ① H24 質問紙調査からわかった課題

設問 「鑑賞で感じ取ったことを表現で生かすようにしているか」について

（平成24年度 9月～10月 小6 88名（2校） 中1 186名（2校）実施）

肯定的な回答の割合が小6は20.2%、中1が51.2%となっている。否定的な回答は、小6で80%、中1では48.8%であり、鑑賞で知覚・感受したことが表現活動に生かされていないということがわかった。課題としては、学習内容を明確にするとともに、〔共通事項〕を支えに教師が「何を教えるのか」を意識して指導するこ



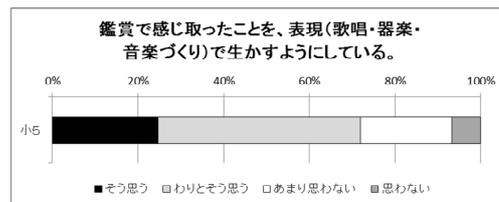
とがあげられ、鑑賞で知覚・感受した内容を表現に結びつけていく指導が必要である。

## ② 平成25年度実施質問紙調査より

平成25年度 6月実施 小5 89名(1校)

肯定的な回答の割合は、71.9%、否定的な回答の割合は28.1%であった。前年度、小6で実施した調査と比較すると肯定的な回答の割合が高い。

教師が表現と鑑賞の関連を図ることを意識して指導計画を立て、授業実践した結果であると考えられる。さらに肯定的な回答の割合が高くなるよう指導の工夫をしていくことが必要である。



## ③ 検証授業 (毛呂山町立毛呂山小学校・第5学年)

題材名「いろいろなひびきを味わおう」

題材の目標

- ア 歌声や楽器が重なり合ういろいろな響きの特徴や違いを感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり想像豊かに聴いたりすることができるようにする。
- イ 音の特徴や音色の違いを生かして、全体の響きのバランスに気をつけながら、音の組み合わせを工夫して演奏することができるようにする。

## ④ 検証のための手立て(方法)、手立てを行うために工夫した点

ア 指導計画の工夫

児童が表現活動(グループアンサンブル)において、ある程度音を合わせて演奏することができるようになった段階で、鑑賞活動に取り組み、鑑賞で知覚・感受したことを表現活動に生かし、各グループで表現の工夫ができるような指導計画を立てた。

時	教材	学習内容	[共通事項]
1	いつでもあの海は リボンのおどり(ラバンパ)	○旋律の特徴や自分の思いを生かして主旋律を歌う。 ○リコーダーや鍵盤ハーモニカで①を演奏する。	ア: 音色 拍の流れやリズム
2	いつでもあの海は リボンのおどり(ラバンパ)	○主旋律と響きをつくる旋律を重ねて合唱する。 ○リコーダーや鍵盤ハーモニカで①⑤を演奏する。	
3	リボンのおどり(ラバンパ)	○曲全体の感じをつかんで、①～⑦の旋律を演奏する。	ア: 音色 音の重なり 拍の流れやリズム
4	リボンのおどり(ラバンパ)	○各声部の担当を決め、主旋律のきこえるバランスを意識して演奏する。	
5	カノン	○旋律の反復と変化を感じ取りながら聴く。 ○自分たちの演奏に生かせそうなことを記述する。	ア: 音色 強弱 音の重なり イ: 反復
6	リボンのおどり(ラバンパ)	○鑑賞の学習を生かして、表現を工夫する。	ア: 音色 旋律 強弱 音の重なり 拍の流れやリズム イ: 反復 変化
7	リボンのおどり(ラバンパ)	○友達の演奏を聴き合い、そのよさを味わう。	

## イ 鑑賞の視点を明確にした指導

本題材では、鑑賞で知覚・感受したことを表現活動に生かすというねらいを達成するために鑑賞の視点を[共通事項]に挙げられているものの中から反復、音の重なり、音色、強弱に限定して指導した(鑑賞後の表現の工夫の視点も同様のものとした)。

また、編成の異なる2つの音源を用意し、比較鑑賞することで、鑑賞の視点がより明確に知覚・感受できるようにしたいと考えた。楽曲を部分的、全体的に何度も聴くことで、楽曲の特徴や感じ取ったことを自分の言葉で表現できるようにしたいと考えた。

## ウ ワークシートの工夫

児童が比較鑑賞して、知覚・感受したことやグループアンサンブルに生かしたいことが記述できるようなワークシートを工夫した。

カノン (パッフェルベル作曲)  
5年 組

2つのカノンを聴き比べよう。

演奏形態	①	②
冒頭の旋律がくり返されると		
感じたこと		

全体を通して、気づいたことや感じたことを書こう。

「リボンのおどり」の音楽に生かそうなことを書こう。

## エ 鑑賞教材及び音源の選定の工夫

グループアンサンブル「リボンのおどり」では、4小節のフレーズを反復する中で、旋律やリズムの組み合わせや強弱を工夫してグループオリジナルのアンサンブルをつくっていくことになっている。本題材では、鑑賞教材として、「カノン」を選択した。この楽曲は、わずか2小節のオスティナート主題が低音の楽器で奏されて開始される。

この低音に3本のバイオリンによる旋律が、カノンの形で重なりながら、雄大な広がりを見せていく構成になっている。旋律が多様に変化しながら反復されていくことや新たな旋律の重なりによる響きの広がりを見せていくこと等を感じさせたいと考えた。

また、比較鑑賞で用いる音源については、通奏低音と3本のバイオリンによる演奏と、多彩な音色の楽器で編成されている吹奏楽による音源を選択した。新たな旋律がそれまでとは異なる音色で加わることにより、強弱が変化したり、響きが広がったりすることを感じさせ、グループアンサンブルにも生かせるようにしたいと考えた。

### <使用音源>

- ・「カノン」(パッフェルベル作曲) エンシェント室内管弦楽団 指揮：クリストファー・ホグウッド
  - ・「カノン」(パッフェルベル作曲/パウルソン編曲) 東京佼成ウインドオーケストラ 指揮：ゲイブリエル
- 本時の評価規準及び手立ては以下の通りである。

☆音の重なりや音色、強弱の変化を感じ取って聴いている。

【エ 発言の内容の分析、ワークシートの記述の分析】

A 音の重なりや音色、強弱の変化を感じ取って聴き、楽曲全体の印象の違いを言葉で表している。

B 音の重なりや音色、強弱の変化を感じ取って聴き、印象の違いを言葉で表している。

C 音の重なりや音色、強弱の変化を感じ取って聴き、印象の違いを言葉で表すことができない。

◇Cと判断される児童への働きかけ

音色や強弱が変化している部分を具体的に示し、受ける印象について共に考える。

## ⑤ 検証から見てきたこと、わかったこと

### ア 指導計画の工夫

表現—鑑賞—表現という組み合わせで指導計画を立てたことにより、表現のための鑑賞というねらいが明確になり、意欲的に鑑賞活動に取り組めたようだ。表現活動においては、児童の創意工夫に任せるという考えから視点を与えずにグループで表現を工夫させるよりも、鑑賞で知覚・感受したことを生かし、旋律やリズムの重ね方や強弱を工夫するという視点を与えた方が、演奏者だけでなく、聴き手にとっても表現の工夫が感じ取りやすくなった。

### イ 鑑賞の視点を明確にした指導

### ウ ワークシートの工夫

## エ 鑑賞教材及び音源の選定の工夫

楽曲を部分的、全体的に何度も聴くにあたり、その都度、視点を一つに限定して鑑賞させた。その際、発問の仕方を工夫することで、教師がねらいとする鑑賞の視点を児童から引き出すことができた（「旋律がくり返されている」「だんだん大きくなっている」等）。一方で、ワークシートへの記述をみると、「音が変わった」「リズムが速い」等鑑賞に用いることのできる語彙の少なさや誤った使い方の多さが明らかとなった。

また、鑑賞教材については、旋律の反復という特徴から「カノン」を選択したが、旋律やリズムの重なり、強弱の変化が明確にわかる音源を探すことが難しかった。吹奏楽の音源から多少音色の違いを聴き取ることができたが、児童に知覚・感受させたい要素がよりわかりやすい教材、音源を選択することの重要性を感じさせられた。

本時の評価規準に基づき、評価したところ以下のような結果となった。（89名中）

A 28名（31.5%） B 58名（65.2%） C 3名（3.3%）

＜Aと判断される児童のワークシート＞  
2種類の音源について、変化した要素が明確に記述されており、具体的にどのように変化しているかも記述されている。また、2種類の音源の表現の違いについても視点を明確にして記述することができている。

♪ 2つのカノンを聴き比べよう。

演奏形態	①バイオリンと通奏低音	②吹奏楽
観賞の観点がくり返されると	音の高さやリズムが変化する。	音の強さが変化する。
感じたこと	音の強弱が強くなったり弱くなっている	だんだん楽器がたくさん入ってきて、ともに音が強くなっている。

♪ 全体を通して、気づいたことや感じたことを書こう。

2つのカノンを聞いて、2つとも強弱があるけれど、吹奏楽の方が、わかりやすい。

♪ 「リボンのおどり」の合奏に生かせそうなことを書こう。

音を強くしたり、弱くしたり、強弱をつけることが、生かせそう。

♪ 2つのカノンを聴き比べよう。

演奏形態	①バイオリンと通奏低音	②吹奏楽
観賞の観点がくり返されると	リズムが変化する	音の高さが変化する
感じたこと	たんだん最初より、ま、たくちかうリズムになった。最後にはおそくなった。	最初は、低いパートだけだったけど、高いパートという楽器が加わって、強弱もついて音かにおやかになった。

♪ 全体を通して、気づいたことや感じたことを書こう。

2の方が音かにおやか

♪ 「リボンのおどり」の合奏に生かせそうなことを書こう。

楽器をじんじん入れる(あとから)

＜Bと判断される児童のワークシート＞

♪ 全体を通して、気づいたことや感じたことを書こう。

同じ音楽なのに、楽器、強弱、音色、高低などを  
変えるだけで他の音楽になりそう。

♪ 「リボンのおどり」の合奏に生かせそうなことを書こう。

強弱→ 強すぎず、弱すぎず。

♪ 全体を通して、気づいたことや感じたことを書こう。

同じせんりつでも速さや強弱が、あるとちが  
うせんりつになる。

♪ 「リボンのおどり」の合奏に生かせそうなことを書こう。

カノンみたいに音が、どんとん入ってくるよ  
うにしたい。

2種類の音源の表現の違いには気付いているが、それぞれの要素がどのように変化しているかまでは、記述できていない。

また、「全体を通して、気づいたことや感じたことを書こう」の欄に「だんだん強弱が強くなりはげしくなった。」「だんだん音が変わってきたりしてきれいだった。」等の音源もしくは2種類の音源について全体の印象を記述している児童も見られた。教師としては、2種類の音源を比較して気づいたことや感じたことを記述することを意図していたが、ワークシートの設問の表現に問題があり、すぐに教師が2種類の音源の違いを書くことを指示したものの児童には伝わらなかったと考えられる。このことから知覚・感受させたい要素に気付かせるための教師の発問やワークシートの設問、形式等の重要性が明らかとなった。

### ⑥ 小中の接続期において円滑となる有効な指導

児童に行った質問紙調査において「鑑賞で感じ取ったことを表現で生かすようにしてい

るか」という設問に対する肯定的な回答の割合は、授業前より授業後の方が高くなったことから、表現と鑑賞の関連を図った指導計画を工夫することが有効であるといえるであろう。本研究のように、表現活動の間に鑑賞を入れ、表現―鑑賞―表現という指導計画を立てることで、表現のための鑑賞というねらいが明確になり、意欲的に鑑賞活動に取り組めた。表現活動においても視点を与えずに「表現を工夫しよう」と児童に投げかけるよりも鑑賞で知覚・感受したことを生かし、旋律やリズムの重ね方や強弱を工夫して表現しようと投げかけた方が工夫の視点が明確になる。また、表現活動の自己評価、相互評価においても視点が明確になり、評価能力の向上も期待できる。表現と鑑賞の関連を図るためには、本研究で作成したような指導計画だけではなく、ねらいに応じて題材や一単位時間の中での鑑賞の位置づけを工夫して指導計画を立てることが大切である。

## ⑦ 本年度の成果と課題

### ア 成果

- ⑦ 表現―鑑賞―表現という組み合わせで指導計画を立てたことにより、表現のための鑑賞というねらいが明確になり、意欲的に鑑賞活動に取り組めた。表現活動においても鑑賞で知覚・感受したことを生かし、旋律やリズムの重ね方や強弱を工夫するという視点が明確になることで、演奏者だけでなく、聴き手にとっても表現の工夫が感じ取りやすくなった。
- ⑧ 鑑賞の視点を限定して鑑賞させ、児童からねらいとする要素（「旋律がくり返されている」「だんだん大きくなっている」等）を引き出すことができた。
- ⑨ 質問紙調査において、「鑑賞で感じ取ったことを表現で生かすようにしているか」の設問について授業前は、肯定的な回答の割合が71.9%であったが、授業後は、96.5%になった。

### イ 課題

- ⑦ 鑑賞に用いることのできる語彙を増やす。
- ⑧ 児童に知覚・感受させたい要素がよりわかりやすい教材、音源を選択する。
- ⑨ 知覚・感受させたい要素に気付かせるための教師の発問やワークシートの設問、形式等をよく吟味する。

## (2) 変声期に入った児童生徒への指導方法の工夫改善

### ① H24 質問紙調査からわかった課題

「声変わり中の歌唱活動には、どのように参加したか」では、「歌わなかった」と回答した小6が11, 4%であった。教師は、「高い声のまま」「低い声のまま」など歌いやすい方を歌わせているが、「低い声のまま」と回答した小6が37, 1%で中1の28, 9%を上回っていることについては、小6で変声期に入ったことで声を出すことが恥ずかしくなったのではないかと考えられる。また、「歌いたくない時期」については、小6が「小6」と答えた21%と、中1が「小6」と答えた18, 3%は数値的に近いと言える。これは、変声期が原因の一つと考えられ、小学校高学年から中1の変声中の歌唱活動をうまく乗り越えることが大切であると考えられる。

### ② 検証授業 (伊奈町立南中学校・第2学年)

題材名「アレンジを工夫してアンサンブルを楽しもう」

目 標

ア 声部の役割や全体の響きなどに関心を持ち、自分の声域をとらえながら音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。(音楽への関心・意欲・態度)

イ 音楽を形づくっている要素を知覚し、声部の役割や全体の響きを感じ取って、音楽表現を工夫する。(音楽表現の創意工夫)

ウ 声部の役割や全体の響きを生かして歌うための技能を身につける。(音楽表現の技能)

③ 検証のための手立て(方法)、手立てを行うために工夫した点

ア 中1生徒へのアンケートからの実態調査をする。

イ どういう点で困っているのかを明確にする。

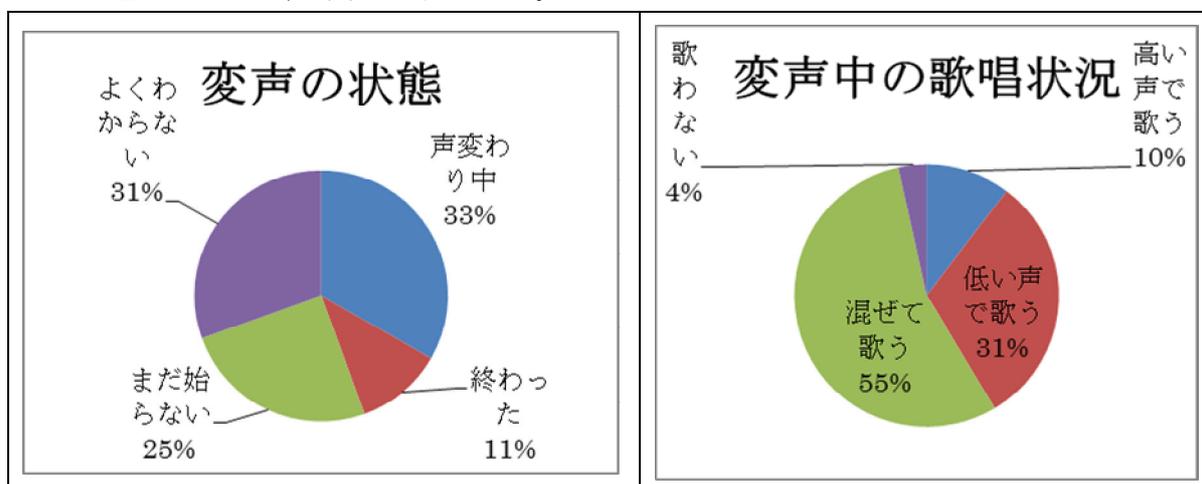
ウ 困っていることを改善できる授業展開の工夫。(アンサンブル活動を通じて)

エ 曲種に応じた発声についての授業展開の工夫。(日本の民謡を用いて)

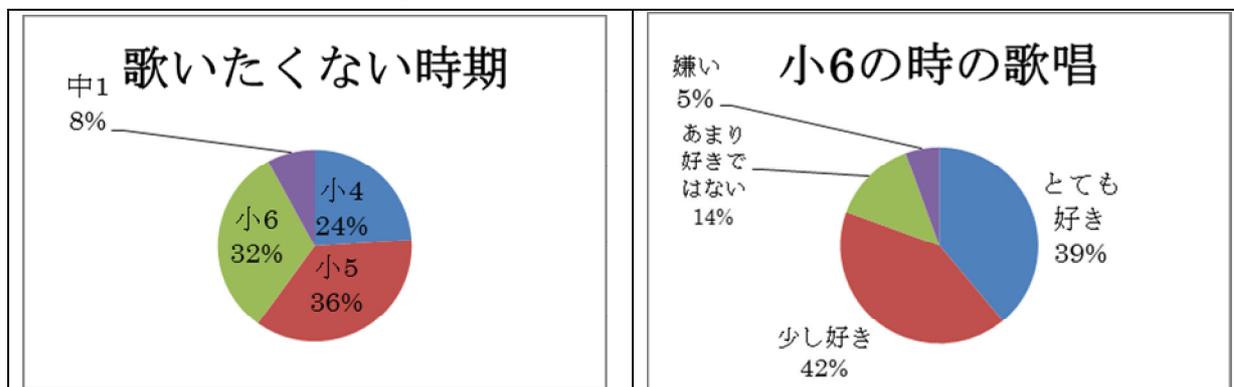
④ 検証から見えてきたこと、わかったこと

ア 中1生徒へのアンケートからの実態調査より (中1男子53名対象)

\*中1女子にも同じようなアンケートはとったが、自分の声変わりを自覚している生徒はほとんどいないため、対象より除外した。



アンケートは中1の7月に実施したが、変声期が終わったという自覚のある生徒は11%であった。声変わり中でも、だいぶ男声の声域で歌える生徒が多いものの、低い声に慣れないから疲れるという声も聞こえる。しかし、発声練習などで、低い音チャレンジをしていくと、積極的に低い声を出して頑張る姿も見られる。反対に、高い声の方がよいと申し出た生徒は、ソプラノパートやアルトパートに混ぜて歌うことにしている。新しい曲をやるたびに、自分で選択をできるようにしている。



小6の時の歌唱は、「とても好き」「少し好き」を合わせると、81%の生徒が好きと答えている。歌うことが「好き」な集団として、かなり声もでる学年といえる。また、歌いたくない

時期に関しては、小5、小6を合わせると68%になった。小中連携の一環として、小5全員を中学校の合唱祭に招待しているが、「歌いたくない時期がはじまる」小5の時期に中学生の歌声を聴かせるのは、有効であるとする。

イ どういう点で困っているのか

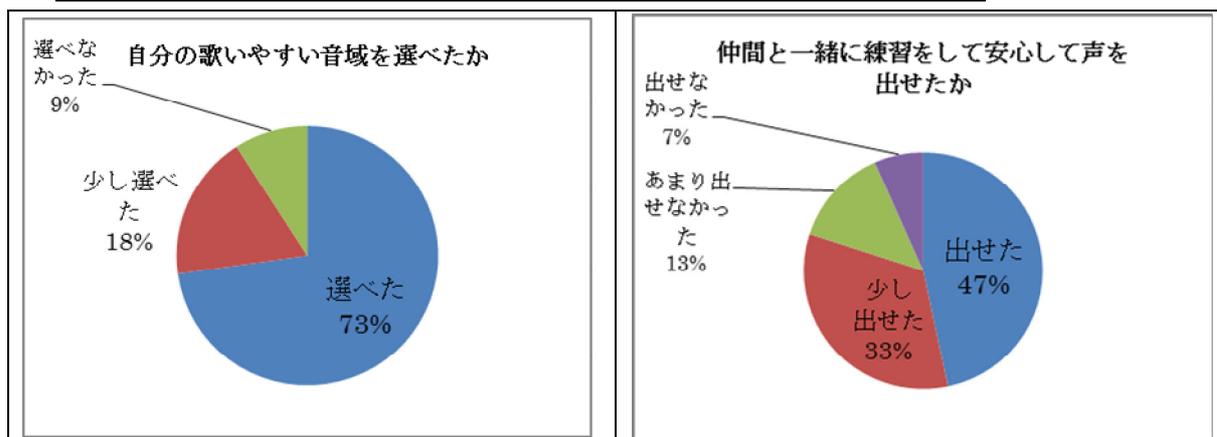
アンケート結果より

- \* 高い声がでない。裏返ってしまう。
- \* 歌が下手になったように感じる（音程が取れない）
- \* 声がうまく伸ばせない
- \* 歌にくい。
- \* 音が合っているかどうか分からないから自信がない

ウ 困っていることを改善できる授業展開の工夫（アンサンブル活動を通じて）

- ・ 今回の授業での検証においては、自分の声域にあった旋律を作ったり選択したりし、元にある音のアレンジすることによって、無理のない範囲で他のメンバーと歌い合わせる喜びを味わわせる。ひとりでは自信のない生徒は、同じ音を歌っている生徒の横で歌わせる。
- ・ 小学校の既習曲でもあるので、自信をもって歌える曲を選択する。（こげよマイケル）
- ・ 変声期の正しい知識を持たせることにより、成長の過程で誰にでもあることなのだという安心感を持たせる。変声期の様子を記録したCDなどを活用する。
- ・ 曲種に応じた発声にも注目し、「秩父音頭」を用いた授業を展開した。中学校で初めて地声で歌う活動をしたことから、新鮮な気持ちで意欲的に取り組む男子生徒が多かった。地声でのびのびと歌う活動は、変声期の男子でも受け入れやすいものであったので、小学校でも地域の民謡などを歌う活動を取り入れても効果的である。

エ 曲種に応じた発声についての授業展開の工夫（日本の民謡を用いて）



工夫した点は、自分の歌いやすい音域を選び、歌唱できるようにワークシートへの記載に関しては、楽譜を音符で書くのではなく、○で音符（階名）を選ばせるようにさせた。教育芸術社の教科書も階名で楽譜が書いてあるので使いやすい。また、合計すると80%の生徒が、安心して声をだせる・少し出せたと答えている。20%の生徒への指導としては、全体指導としてしっかりとオリジナルの各パートをしっかりと歌えるように指導し、グループに分かれた時に自信を持てるように徹底して指導することが大切である。

## ⑤ 小中の接続期において円滑となる有効な指導

小学校段階で変声期を迎える子どもが増えてきたことを反映して、平成20年に告示された学習指導要領改訂では、変声期に関する指導が明記された。いつ変声するかということも、子どもたちにとっては大きな関心事である。変声の早い少年が周りの友達にからかわれたり、親や周りの大人からその早熟ぶりを指摘されて精神的に傷ついたり、無口になったり、歌う意欲を無くしてしまうことはしばしばみられる。反対に変声の遅い少年が、周りの友達が次々に変声するのに、自分だけ取り残されたような気持ちになってあせることもあるであろう。周囲から浮いてしまう自分の声を恥ずかしく思ったりしないように、男声のパート分けや並ばせ方には細心の注意が必要となる。思春期は、周りの友達と比べて早い遅いということがたいへん気になる時期である。

しかし、この不安は、全員が変声してしまえば収まるという性質のものである。変声期（前後）の心のケアを十分にしつつ、生徒にあった声域を選ばせ、丁寧に指導していくことが大切である。小中の連携のひとつとして、校内合唱コンクールに小学生を招待するということが行われている。

本校では、連携小学校の5年生を招待して、中学校の演奏をすべて聴く機会を持っている。年齢に応じた声の違いを間近で体験してもらうことによって、低い声への憧れや不安を取り除くきっかけとなることになるであろう。また、高校生の完成された混声合唱や、男声合唱などを聞く機会も与えたいものである。連携が難しいのであれば、DVDなどで代用し、様々な合唱を聞き比べることも子どもたちへの不安を解消し、憧れをもてるきっかけとなるであろう。

小学校では、あまり曲種に応じた発声については触れていることが少ないようだが、地域の民謡などを地声で歌うことも取り入れると、変声期で高音や裏声が出づらくなっている男子児童・生徒も、参加しやすいことがわかった。地声を磨くことから、頭声と地声のミックスボイスをこの機会に取り入れて、女声の課題としてよく取り上げられる「きれいではあるが、かぼそい声」にも効果的な指導ができると考える。

## ⑥ 本年度の成果と課題

### ア 成果

自分の声域にあう旋律を創作したり、選択することにより、より意欲的に活動ができる男子生徒が増えた。また、自信をもって歌える曲をあえて選択することにより、安心感を与えることがわかった。

変声期の正しい知識を、言葉だけでなく、音源などを用い、具体的にわからせる授業を、中1の年度当初にしっかりと行うことにより、茶化したりする行動がほとんどなく、安心感を持って授業に参加できる生徒が増えた。また、曲種に応じた発声にも注目してみたが、民謡などの地声で歌う活動には、男子生徒の方が抵抗がなく、意欲的に活動できることがわかった。反対に、女子生徒の方が裏声に固執してしまい、地声で歌うことに抵抗があることがわかった。

### イ 課題

今後は、変声期を乗り切るまでの配慮を欠かさないようにするとともに、曲種に応じた発声についてもさらに研究をすすめ、男子生徒が意欲的に参加できる授業展開をもっと考えていく必要がある。また、女子生徒に関しては、地声と裏声をミックスしたもっと芯のある声を磨けるように指導をしていきたい。

### (3) アルトリコーダーの指使い等の指導改善

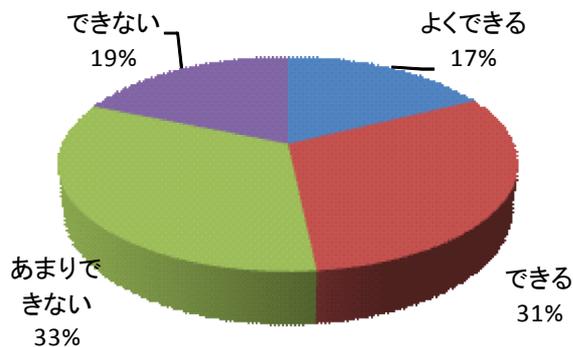
検証（富士見市立東中学校・第1学年）

#### ① アンケート（別紙）

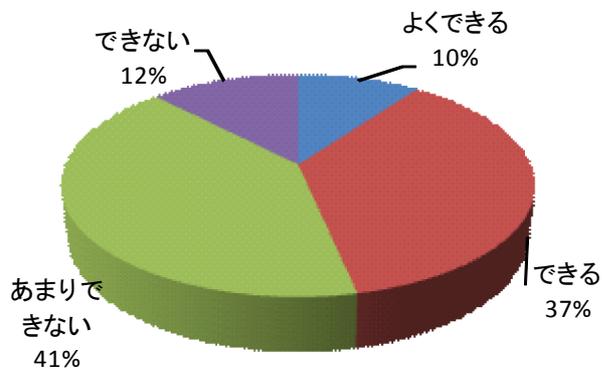
アルトリコーダーに取り組む前に、小学校時のソプラノリコーダーの取組についてのアンケートを行う。同時に、読譜力に係わる内容もアンケートに盛り込む。

#### ② アンケートの結果と考察（課題）

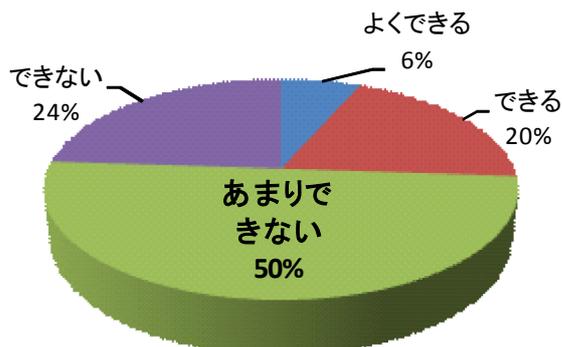
五線譜上の音符を見て、階名を  
読むことができますか。



楽譜を見て、自分の力でリズム  
を打つことができますか。



音符以外で、楽譜から音楽の記号  
を読み取ることができますか。



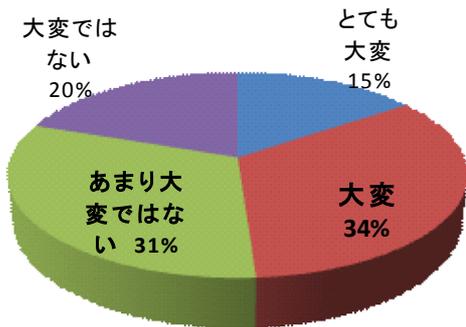
#### ア 読譜に関する内容

中学校1年生（92名）に対してアンケートを行った。上の3つは、読譜に関する内容であり、小学校6年生の頃を基準として回答してもらった。まず、「五線譜上の音符を見て、階名を読むことができますか。」という質問では、「よくできる」、「できる」の合計が48%であり、半数を超える生徒が階名を読むことが“苦手”であることがわかった。

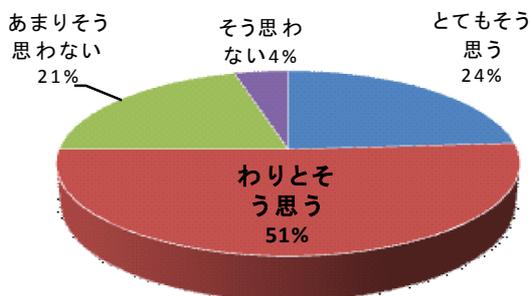
次に、「楽譜を見て、自分の力でリズムを打つことができますか。」という質問では、「よくできる」、「できる」の合計が47%であり、階名読みと同じく半数を超える生徒が、楽譜を見てリズムを打つことが“難しい”と答えている。

さらに、「音符以外で、楽譜から音楽の記号を読み取ることができますか。」という質問では、「よくできる」、「できる」の合計が26%であり、7割強の生徒が音楽の記号を読み取ることに難を示している。これは、記号を読み取る以前に、記号を覚えることが課題といえる。

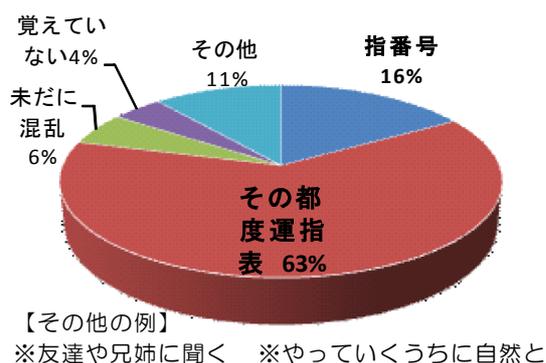
### ソプラノリコーダーの指使いを覚えるのが大変でしたか。



### ソプラノリコーダーを演奏することは好きですか。



### どのようにソプラノリコーダーの指使いを覚えましたか。



### イ ソプラノリコーダーに関する内容

「ソプラノリコーダーを演奏することは好きですか。」という質問では、「とてもそう思う」、「わりとそう思う」と肯定的な回答をした生徒が75%であった。小学校で取り組んだソプラノリコーダーについて、25%の生徒が「好きではない」と判断していることから、中学校入学後に取り組むアルトリコーダーの導入期が大きなポイントとなりそうである。

本校の生徒は、ソプラノリコーダーを小3から取り組み始め、小6の時点では多くの生徒（児童）が4年間ソプラノリコーダーの授業に取り組んでいにもかかわらず、小6の頃を基準として回答した内容では、「ソプラノリコーダーの指使いを覚えるのが大変でしたか。」という質問に、約半数が「大変」と回答している。昨年度中1で行った、「アルトリコーダーの指使いを覚えるのが大変でしたか。」という質問で、「大変だった」と答えた生徒が約65%であったことから、アルトリコーダーに新たに取り組むうえで、指使いを確実に身に付けさせることが重要であることがわかる。授業で扱う時期や時間数なども考慮しつつ、取り組む必要がある。

「どのようにソプラノリコーダーの指使いを覚えましたか。」という質問では、「指番号」は16%と低く、「その都度運指表を見て覚える」が63%であった。昨年度中1で行った、「どのようにアルトリコーダーの指使いを覚えましたか。」という質問では、「指番号」が50%であったので、小学校での取り組みから「指番号」を用いることによって、指使いの定着が早まるのではないかと考えられる。

### ウ 考察（課題）

「器楽の教科書を開き、アルトリコーダーの指使いを学び、簡単な楽曲から取り組む」というプロセスは、我々教師の側から考えれば“あたりまえ”のことなのであるが、授業を受ける生徒の実態は、「指使いを覚える」のが苦手で、またその多くは、「音符（リズム）を読む」ことにも苦手意識をもっていることが多い。読譜指導は、器楽だけでなく音楽の学習全般を支える基礎であるので、これらを効果的に学ばせていきたい。

### ③ 実践（検証のための手立て）

#### ア 読譜力向上の取組

##### ㊦ リズム読み～階名唱

4拍のフラッシュカードを作り、常時活動として授業のはじめに取り組む。方法は、リズムを声に出して読む（歌う）、手拍子でリズムを叩く、手と歌を一緒に行う、という手順で、毎時、1～2種類のリズム学習を行った。リズムは、「打楽器のための小品」（教芸、中学生の器楽P. 78）を使った。後に「打楽器のための小品」に取り組むことを考慮したためである。

次に、アルトリコーダーで取り組む楽曲のリズム読みをしてから階名唱を行った。

##### ㊧ 記号の読み取りに関して

教科書（教芸、中学生の音楽1、P. 71）にある記号をマグネットシートに貼り、楽譜を使う時は、いつでも黒板で確認できるようにした。

#### イ アルトリコーダーの指使いの指導改善

第1学年でアルトリコーダーを使った器楽学習7時間計画を、3時間（1時間を2分割あり）と2時間（実技テスト）と2時間（10分×10回）に分割し、10回の10分学習は常時活動として授業のはじめに取り組むことにした。

時	回	分	内 容
1	1	50分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルトリコーダーの組み立て方</li> <li>・指番号、ド～ソ（左手のみ）の指使い</li> <li>・「喜びの歌」を楽譜を使わずに吹く</li> <li>・タンギングの仕方指導</li> </ul>
2	2	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指番号の復習</li> <li>・「喜びの歌」の楽譜のリズム読みと階名唱をしてから吹く</li> <li>・新曲として「かっこう」に取り組む</li> <li>・チューニングについて指導</li> </ul>
	3	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指番号の復習</li> <li>・「かっこう」をペアで取り組む</li> <li>・新曲として「聖者の行進」に取り組む</li> </ul>
3	4	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「聖者の行進」をペアで取り組む</li> </ul>
	5	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「聖者の行進」をペアで取り組む</li> </ul>
4	6	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技テスト（「聖者の行進」）</li> </ul>
5	7	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「喜びの歌」「かっこう」「聖者の行進」をメドレーにして吹く</li> <li>・ドから下のソ（右手）までの指使いを覚える</li> <li>・タンギング（発音）について指導</li> </ul>
	8	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドから下のソ（右手）までの運指の復習</li> <li>・「オーラ リー」を、教師の歌に続いて楽譜を見ずに吹く</li> </ul>
			ここで1学期が終了。「オーラ リー」は夏休みの宿題として取り組ませ、2学期に実技テストを行う。
9	10分	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「喜びの歌」「かっこう」「聖者の行進」「オーラ リー」をメドレーにし</li> </ul>

5			て吹く
	10	10分	・「喜びの歌」「かっこう」「聖者の行進」「オーラ リー」をメドレーにして吹く
	11	10分	・「喜びの歌」「かっこう」「聖者の行進」「オーラ リー」をメドレーにして吹く
6	12	50分	・実技テスト（「オーラ リー」）
7	13	10分	・ラ（上のラ）～ド（上のド）の指使いを覚える。 ・「これはなんとすばらしい音だ」の4段目を、 教師の歌に続いて楽譜を見ずに吹く
	14	10分	・「これは何とすばらしい音だ」をペアで練習する
	15	10分	・「これは何とすばらしい音だ」をペアで練習する。 ・アーティキュレーションを工夫させる
	16	10分	・「これは何とすばらしい音だ」をペアで練習する ・アーティキュレーションを工夫させる
	17	10分	・「これは何とすばらしい音だ」をペアで練習し、発表の準備をさせる
	18	25分	・「これは何とすばらしい音だ」の発表会を行う

#### ④ 成果と課題

##### ア 成果

リズム読みや階名唱などの取組をドリル的に継続することにより、「楽譜アレルギー」のような雰囲気を取り除くことができた。さらに、リズム創作や合唱の譜読みにも抵抗なく入っていたことは大きな収穫であった。また、中学校の器楽学習でアルトリコーダーに取り組むことは、中・高の接続にも生きてくるはずである。

##### イ 課題

これらを実践するに当たっては、毎時の授業における「常時活動」として最低でも10分～15分が必要であり、本時の学習が35分前後となるため、綿密な指導計画の作成が必要といえる。

#### (4) 原語による歌唱指導の工夫改善

##### ① H24 質問紙調査からわかった課題

「上級学校に進むと授業が難しくなるのではないかと不安になる」という質問に対し、中3は6割の生徒が、高1では6割強の生徒が「そう思う」と答えている。この不安の中身が一体どんなことなのかを改めて高校1年の1学期の授業で生徒に調査した。その結果、歌唱に関する内容として「外国語の歌唱が増えた」「イタリア語の発音に戸惑った」「歌の高音域が増えた」等、言語と音域に関する内容が多数見られた。このことから、言語の発音練習と歌唱の音域を中心に工夫改善を考えた。

##### ② 検証授業（上尾高等学校・第1学年）

題材名「ドイツ歌曲に挑戦（『野ばら』シューベルト／ヴェルナー）」

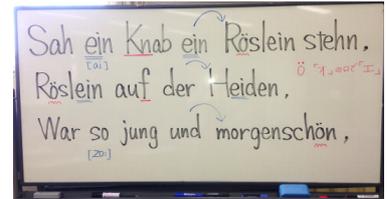
題材の目標

- ア ドイツ歌曲に関心を持ち、主体的に歌唱活動に取り組む「音楽への関心・意欲・態度」
- イ 曲想や歌詞を理解し、楽曲にふさわしい音楽活動を工夫する「音楽表現の創意工夫」
- ウ イメージを持って音楽表現するために必要な発声、ドイツ語の発音などの技能を身につけ、創造的に表現する「音楽表現の技能」

### ③ 検証のための手立て（方法）、手立てを行うために工夫した点

#### ア 発音練習の工夫・・・ホワイトボードの活用

授業の発音練習では、原語歌詞をホワイトボードに書いたものを使用した。ホワイトボードの利点は移動ができる、必要な情報を書き加えることができる、すぐに消すことができる、そして何よりも生徒が前を向くため一人一人の顔がよく見えるということである。ドイツ語のウムラウトや消えてしまいがちなtの音など、発音上注意が必要な部分に○や加線を記入した。また、生徒がうまく発音できない部分や、イメージを持って音楽表現するためのヒントになる言葉の意味などを明確にした。

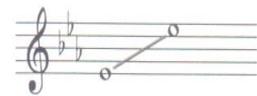


#### イ 音取りの工夫・・・教科書の楽譜よりも低い音域で譜読み

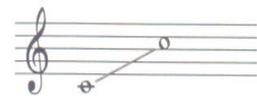
1学期のアンケートの中で「歌の高音域が増えた」という意低い音域で音取りを行い、無理のない発声で正しい発音の定着を目指した。シューベルトの「野ばら」は、変ホ長調の楽譜が教科書に掲載されている（音楽の友社「高校生の音楽1」）。最高音はE sであるが、前の音からの跳躍もあり更に高く感じるのではないかと予想された。

教科書を比較すると、中学校よりも高校の教科書のほうが全体として確かに最高音が高くなっていると言えなくはないが、それほど違いはみられない。ただ、合唱に意欲的に取り組む中学校が多いため、アルトパートで歌い慣れている女子生徒や、声の成長過程にある男子にとっては音が高いと感じられても不思議ではない。授業では、ハ長調（最高音C）で音取りを行った。発声練習をしているとD音あたりから1オクターブ下げて歌おうとする男子生徒が出てくることや、女子の喉を締め付ける発声にならない音域であることなどから男女共に無理なく発声できる音域になるよう配慮した。

変ホ長調の時の音域



ハ長調の時の音域



#### ウ 効果と問題点の考察

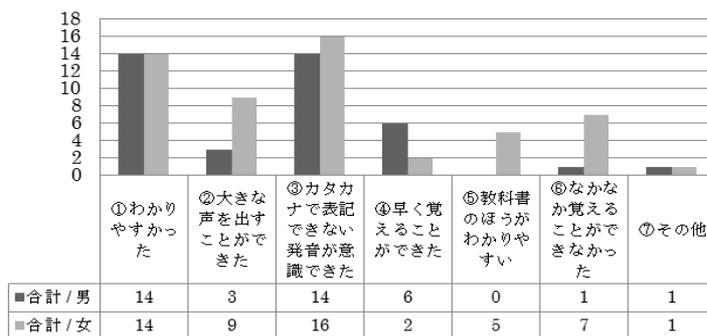
アンケート実施 10月4日 高校1年66名（男子30名、女子36名）

### ④ 検証から見てきたこと、わかったこと

【ア 発音練習の工夫】に対する生徒の感想が【資料1】である。「①わかりやすかった」「②大きな声を出すことができた」「③カタカナで表記できない発音が意識できた」などの回答が多く、ある一定の成果があったと考えられる。ただ、「⑤教科書のほうがわかりやすい」や「⑥なかなか覚えることができなかった」と回答した生徒は教科書のルビを見ながら歌うことを好んだ。また、教師の立場から考えると、生徒の口の動きや顔の表情が見える状態で発音練習ができるので非常に安心する。できない部分が明確になり効率的な練習になることや、音楽室の中が一体となり「できた」「上手になった」という感覚を共有できることも

良い点である。

【資料1】発音練習をホワイトボードで行いました。教科書を見ないで発音練習を行うことについての感想を次の中から選んでください。（複数回答可）



[イ 音取りの工夫] に対する生徒の感想が【資料2】である。

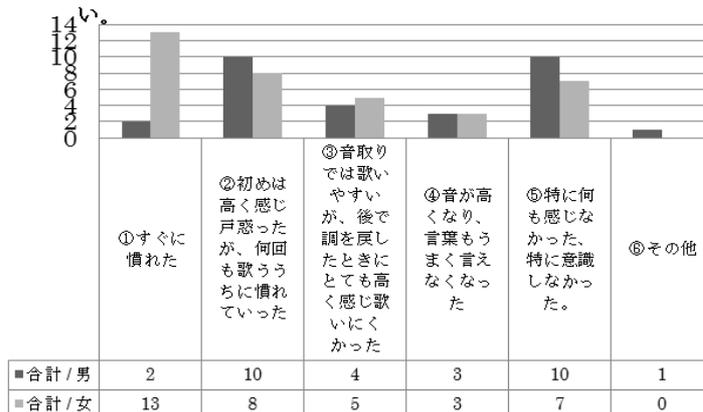
「①正しく発音することに集中できた」「④特に何も感じなかった」と答える生徒が約9割を占め、ほとんどの生徒が問題なく歌唱できたと考えられる。「高い」と感じると声を出すことに気をとられてしまい発音がおろそかになってしまうことがあるが、生徒が歌いやすい音域で歌うことで発音に集中できるため外国語の歌唱においては有効な手段であると考えられる。

【資料2】音取りを教科書の楽譜とは違う音域で行いました。このことについての感想を次の中から選んでください。



続いて、ある程度正しい発音とメロディで歌えるようになった段階で教科書の音域に戻して歌ってみたことについての感想が【資料3】である。男女に差はあるものの「①すぐに慣れた」「②何回も歌ううちに慣れていった」「③特に何も感じなかった」と答えた生徒が全体の75%を超えている。このことから、言葉を充実させるために低く移調して音取りを行うことは有効であると考えられる。その一方で、もともと声の音域が低い生徒や外国語そのものに非常に強い苦手意識を持っている生徒もいる。また、新しいメロディをなかなか覚えられない生徒もいる。そのような生徒から「③歌いにくかった」「④言葉もうまく言えなくなった」という答えも見られた。移調のタイミングについては、しっかり歌えているということの見極めと配慮をしっかりとしない。

【資料3】音取りの後、教科書の調性に戻して歌いました。このことについての感想を次の中から選んでください。



## ⑤ 中高の接続期において円滑となる有効な指導

音楽では安心して授業に参加できる環境づくりが大切である。高校入学時は友人も少なく、人間関係も希薄である。高校1年の1学期は中学校までに歌い慣れた楽曲や日本語の楽曲を中心に学習する中で、大きな声で伸び伸びと歌える雰囲気づくりに力を注いだ。その後、原語による歌唱など難しい内容に移っていくことが有効である。また、可能であれば「Edelweiss（英語）」「O sole mio（伊語）」など原語の歌唱を中学校の授業でも学習し、その経験が生徒の言語による歌唱に対する不安を軽減させることにつなげていけるのではないかと考えた。

原語の歌唱には言葉そのものの特殊性だけでなく、日本語の歌唱とは違い、ひとつの音符に複数の子音と母音が含まれることが多い。そのため、言葉に対する不安を取り除くことは重要であり、またそれができるようになり自由に表現できたときの喜びや達成感はとても大きなものになった。このことは生徒の感想や表情からもうかがえた。

## 2 本年度の成果と課題

### (1) 成果

#### ① 小中の接続期において

鑑賞の視点を明確にした授業を展開するために、題材全体の中で鑑賞の活動をどの場面で位置付けるのか指導計画に組み込むことや、短い時間でも効果的に知覚・感受できるような活動の工夫を考えて授業構成をすることや、児童の言語を引き出す学習活動の工夫が大切であることがわかった。

変声期に入った児童生徒へは、音程が取れる子の近くで一緒に歌わせたり、民謡など地声でも伸び伸びと歌えるなど、安心して歌える環境をつくることが大切であることがわかった。

アルトリコーダーの指導では、導入時にフラッシュカードを使ってリズムを読むなど楽譜に慣れさせたり、指導計画を工夫してリコーダーの学習を定期的に、あるいは常時活動として取り入れることで、リコーダーに触れる機会を確実に増やしていくことが大切であることがわかった。

#### ② 中高の接続期において

高1の1学期は、中学校までに歌い慣れた楽曲や日本語の楽曲を中心に学習する中で、大きな声で伸び伸びと歌える雰囲気づくりをつくることが大切であることがわかった。その後、中学校で学習した原語による歌曲から始め、歌唱に対する不安を軽減させることが大切である。

### (2) 課題

#### ① 小中の接続期において

鑑賞の指導では、鑑賞に用いることのできる語彙を増やしたり、知覚・感受させたい要素を気付かせるために、教材や音源を選択したり、教師が意図的に発問するなど様々な課題がある。また、変声期の指導では変声期を乗り切るまでの配慮や曲種に応じた発声について教師が教材研究を重ねていくことが必要である。さらに、リコーダーでは、毎時間の導入など常時活動として取り入れるためには、本時の展開との時間的なバランスを考えるなど、綿密な指導計画の作成が必要である。

#### ② 中高の接続期において

雰囲気づくりによって安心してできる環境をつくったあとは、音楽のよさや美しさを味わったり、豊かな音楽表現を工夫する学習など、音楽の本質を高める学習が必要である。

### 3 研究のまとめ

各検証授業の結果から、指導計画や指導方法の工夫改善が大切であることが改めてわかった。また、音楽は一人一人が声に出して歌ったり、楽器を演奏することで表現方法を工夫したり、互いのよさを認め合い、学級全体で学習を深めていかなければならない。そのためには、児童生徒の心の中に一抹の不安があってはならない。伸び伸びと歌える雰囲気づくりや安心して学習できる環境づくりが大切である。そうしたことを踏まえて、教師は児童生徒の実態を適切に把握し、その対応策をしっかりと考え、指導計画や授業展開を工夫改善していくことが大切である。また、「教える」ことに遠慮せず、教えて考えさせる授業、考えて表現する授業を展開しながら、児童生徒が楽しみながら音楽のよさや美しさを実感できるようにすることが必要である。

# 小学校 第5学年1組 音楽科学習指導案

児童数 32名  
 指導者 爪川由美子  
 場所 第2音楽室

## 1 題材名 言葉と音楽の美しさ ～日本歌曲『待ちぼうけ』に親しもう～

### 2 題材について

本題材は、主に学習指導要領B鑑賞ア「曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。」、ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。」に関連し、言葉と旋律が一体となって生み出される日本の歌曲の美しさを味わうことをねらいとしている。高学年の児童は、音楽を聴いた自分の感じ方、考え方を深めながら、音楽全体を味わって聴くようになる。全体の曲想や、音楽を形づくっている要素の関わり、歌声の響きの特徴などにも意識を向けた鑑賞活動を進めていくことが大切である。

「待ちぼうけ」を扱った鑑賞の導入では、歌詞の反復や言葉のイントネーションをポイントとし、鍵盤ハーモニカをつかって3分間の即興的な旋律づくりを行う。児童の様々な発想や音楽表現を認めるようにするとともに、作曲家山田耕筰の楽曲に対する興味・関心を高めるようにする。また、1/2時間目では、曲想を捉えることや歌詞の表す情景の理解、楽譜を提示して実際に歌う活動などを行い、楽曲に親しむことをねらいとする。特に、題材の中心である2/2時間目では、「音色」（歌声の表情）や「速度」など、演奏者の異なる『待ちぼうけ』を比較鑑賞し、音楽を形づくっている要素の違いに気付かせるようにするとともに、同一の楽曲でありながらも曲想が異なって聞こえる面白さを感じ取れるようにしたい。

### 3 題材の目標

音楽を形づくっている要素が醸し出すそれぞれの曲想の違いを感じ取り、楽曲のよさを味わって聴くことができる。

### 4 教材について（◎鑑賞教材）

◎『待ちぼうけ』（北原白秋 作詞・山田耕筰 作曲）

中国の寓話をもとにつくられた楽曲である。軽快でリズムカルな旋律であり、歌詞に描かれた情景を想像して、歌詞と旋律のかかわりを十分に感じ取ることができる作品である。教科書には楽譜も掲載されているので、鑑賞の活動と関連づけて実際に歌い、親しむことができる。

- <使用音源> ・①「待ちぼうけ」（「日本のうた」鮫島有美子）  
 ・②「待ちぼうけ」（「母のうた～日本歌曲集～」米良美一）  
 ・③「待ちぼうけ」（「美空ひばり童謡を歌う」美空ひばり）

### 5 本題材で扱う〔共通事項〕と学習活動の関わり

〔共通事項〕ア	旋律 音色	速度 強弱
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>『待ちぼうけ』の歌詞（反復部分のみ）を朗読し、即興的に旋律づくりをする。</li> <li>『待ちぼうけ』の独唱を聴く。</li> <li>主旋律を歌詞唱する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2曲の『待ちぼうけ』を聴き比べる。</li> <li>2つの曲を比較鑑賞し、感じたことや気付いたことを伝え合う。</li> </ul>
	・2曲の『待ちぼうけ』を聴き比べ、感じとったことやイメージを色に表し、それぞれの特徴や音楽の諸要素を根拠に整理する。	

### 6 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①旋律の特徴を感じ取って聴く活動に主体的に取り組もうとしている。	①音色や速度、強弱の違いを感じ取り、それぞれの楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。

### 7 指導計画（2時間扱い）

時	○学習内容・主な学習活動	・指導上の留意点 ☆具体的評価規準	〔共通事項〕
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○即興的な旋律づくり</li> <li>○旋律の特徴をとらえる。</li> <li>『待ちぼうけ』（独唱）を聴く。</li> <li>主旋律を歌詞唱する。</li> <li>旋律の特徴を感じながら『待ちぼうけ』を聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「待ちぼうけ 待ちぼうけ」の反復部分のみを取り上げ、ド～ソの5つの音の中から、鍵盤ハーモニカで即興的に旋律をつくるようにする。</li> <li>旋律の特徴や歌詞（言葉）など、感じたことや気付いたことを発表するようにする。</li> <li>楽曲に親しむことをねらいとし、歌詞は1・2番のみを扱うようにする。</li> <li>☆旋律の特徴を感じ取って聴く活動に主体的に取り組もうとしている。（関①）</li> </ul>	ア 旋律
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○速度や強弱の違いを感じ取る。</li> <li>演奏者の異なる『待ちぼうけ』を聴き比べる。</li> <li>『待ちぼうけ』を味わって聴く。</li> <li>速度を変化させて歌詞唱をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの曲を聴き比べ、感じたことや気付いたことを言葉で表すようにする。</li> <li>2曲の『待ちぼうけ』を聴き比べ、感じとったことやイメージを色に表し、それぞれの特徴を音楽の諸要素を根拠に整理するようにする。</li> <li>同じ曲でありながらも、速度や強弱の違い、歌唱表現の仕方の違いにより楽曲全体の曲想も異なって聞こえる面白さに気付くようにする。</li> <li>☆音色や速度、強弱の違いを感じ取り、それぞれの楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。（鑑①）</li> <li>・速度の変化を意識して歌うようにする。</li> </ul>	ア 音色 ア 速度 ア 強弱

8 展開

(1)目標 音色や速度、強弱の違いを感じ取り、それぞれの楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く。(鑑①)

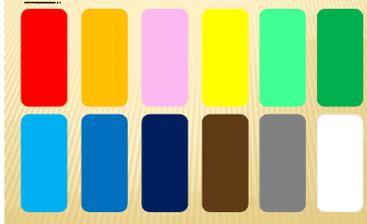
(2)展開 (2/2時間)

学習活動	学習内容	・指導上の留意点 ☆具体的評価規準【評価方法】
1 曲想を感じ取る。 ・『待ちぼうけ』を聴く。 【「日本のうた」鮫島有美子】		・本時「3」の学習内容へと繋げ、音楽を形づくっている要素の関わり合いや違いを明確に感じ取らせることを意図し、比較的「速度」や「強弱」などの変化が少ない演奏を聴かせるようにする。
2 本時のねらいを知る。	同じ曲なのに、ちがって感じるのはなぜだろう？ ～『待ちぼうけ』のひみつをさぐろう～	
3 速度や強弱の違いを感じ取る。  (1)2曲の『待ちぼうけ』を聴き比べる。 A【「母のうた～日本歌曲集～」米良美一】 B【「美空ひばり童謡を歌う」美空ひばり】  (2)感じとったことやイメージを色に表し、それぞれの特徴や音楽の諸要素を根拠に整理する。  (3)楽曲の特徴やよさを話し合う。  (4)『待ちぼうけ』を味わって聴く。	音 色 強 弱 速 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの曲を聴き比べ、感じたことや気付いたことを言葉で表すようにする。また、感じ取ったことに関する発言については、「なぜ、そのように感じたのか」と問うことにより、速度や強弱などの音楽を形づくっている要素に結び付けるようにする。</li> <li>・学習カードを活用し、2つの曲の色イメージや音楽の諸要素を整理できるようにする。</li> <li>・Aの曲は全体的に速いテンポであるが、4番の歌詞や「さむい北風」などの部分はゆっくりとした速度に変化することにも気が付くようにし、その理由も話し合うようにする。</li> <li>・同じ曲でありながらも、速度や強弱の違い、歌唱表現の仕方の違いにより楽曲全体の曲想も異なって聞こえる面白さに気が付くようにする。</li> </ul> <p>☆音色や速度、強弱の違いを感じ取り、それぞれの楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。【鑑① 発言の聴取・表情の観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色カードの選択により、「どうしてその色をイメージしたのか」という理由を音楽の諸要素を根拠としながら、感じ取ったことやイメージに関する発言を聴取するようにする。</li> <li>・落ち着いた雰囲気や、楽曲のよさや特徴を味わって聴くようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞して感じ取ったことをもとに、「待ちぼうけ」を歌詞唱するようにする。</li> <li>・教師がピアノ伴奏の速度を変化させることで、変化を意識して歌うようにする。</li> </ul>

**活動のポイント**

音楽を色で  
表してみよう

1 2色の中からイメージしよう



9 板書計画 (プロジェクター・スクリーン使用)

同じ曲なのに、ちがって感じるのはなぜだろう？  
～『待ちぼうけ』のひみつをさぐろう～

山田耕筰



今日は2人の歌う『待ちぼうけ』をきき比べ、違いを感じ取っていただきたい。  
同じ曲でありながら、何が違うのか。  
さあ、みなさんには、おわかりになるかな？



Aの曲

?

Bの曲

Aの曲

○○色  
○○色

高い歌声  
すき通る  
感じ  
全体的に  
速い  
歌詞や様子  
を伝える  
強弱変化

色イメージ

音 色

速 度

強 弱

Bの曲

○○色  
○○色

低い歌声  
おなかにひ  
びく感じ  
ゆっくりし  
た速さ

歌い方に特  
徴がある

<板書のポイント>

同一曲の比較鑑賞から、感じ取った音楽の諸要素の違いを整理して板書することで、児童の感受や思考を視覚的理解ができるようにする。ICTの活用を図り、本時の課題にせまるよう意図的・計画的に板書展開をする。

# 小学校 第5学年1組 音楽科学習指導案

平成25年6月12日(水)第2校時

学習場所

A棟音楽室

児童数 男子17名 女子13名 計30名

授業者

岩瀬和也

## 1 題材名 いろいろなひびきを味わおう(7時間扱い)

### 2 題材について

#### (1) 学習指導要領との関係

本題材は、主に学習指導要領の内容A「表現」(1)エ「各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。」(2)エ「各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。」B「鑑賞」イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。」、ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。」を基に設定されている。

#### (2) 題材にかかわる児童の実態

児童はこれまでに表現や鑑賞における学習活動において、音楽を形づくっている要素に着目して知覚・感受する学習に取り組んできている。積極的に取り組み、音楽を楽しんでいる様子の児童が多くみられるが、一方で器楽表現や鑑賞活動に苦手意識をもち、学習のコツをつかみたいと願っている児童も見られる。

#### (3) 本題材における指導

本題材では、歌声やいろいろな楽器の音が重なり合うそれぞれの響きを味わったり、きれいな響きを求めて演奏の仕方を工夫したりすることをねらいとしている。

今回重点的に取り組む鑑賞の活動では、パッフェルベルの「カノン」を教材として取り上げる。

この楽曲は、わずか2小節のオスティナート主題が低音の楽器で奏されて開始される。この低音に3本のバイオリンによる旋律が、カノンの形で重なりながら、雄大な広がりを見せていく構成になっている。旋律が多様に変化しながら反復されていくことや新たな旋律の重なりによる響きの広がりをみせていくこと等を感じさせたい。また、多彩な音色の楽器編成による音源を選択し、新たな旋律がそれまでとは異なる音色で加わることにより、強弱が変化したり、響きが広がったりすることを感じさせ、グループアンサンブルにも生かせるようにしたい。

本題材においては、〔共通事項〕のうち、音色、旋律、強弱、音の重なり、拍の流れやフレーズ、反復、変化に焦点を当てて学習を進めていく。〔共通事項〕を手がかりとし、楽曲を部分的、全体的に何度も聴くことで、楽曲の特徴や感じ取ったことを自分の言葉で表現できるようにしたい。

### 3 題材の目標

- 歌声や楽器が重なり合ういろいろな響きの特徴や違いを感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり想像豊かに聴いたりすることができるようにする。
- 音の特徴や音色の違いを生かして、全体の響きのバランスに気をつけながら、音の組み合わせを工夫して演奏することができるようにする。

### 4 教材

- いつでもあの海は
- リボンのおどり(ラ バンバ)
- カノン(鑑賞教材)

<使用音源>

- ①「カノン」(パッフェルベル作曲) エンシェント室内管弦楽団 指揮:クリストファー・ホグウッド
- ②「カノン」(パッフェルベル作曲/パウルソン編曲) 東京佼成ウインドオーケストラ 指揮:ゲイブリエル

### 5 本題材で主に扱う〔共通事項〕

- ア 音色 旋律 強弱 音の重なり 拍の流れやフレーズ
- イ 反復 変化

### 6 題材における指導計画・評価計画(7時間扱い) ○は本時

時	○学習内容・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的評価規準	〔共通事項〕
1	<b>いつでもあの海は</b> ○楽譜や歌詞を読んだり、範唱を聴いたりして、どんな思いやイメージを大切にしたいか話し合う。 ○旋律の特徴や自分の思いを生かして主旋律を歌う。 <b>リボンのおどり(ラ バンバ)</b> ○リコーダーや鍵盤ハーモニカで①を演奏する。	○歌詞を大切にし、曲想に合った発声で読んだり歌ったりする。 ○フレーズを限定して指導する。 ☆互いの声を聴き合いながら、曲想に合った発声で歌っている。 【ウ 演奏聴取】 ○音色やフレーズを意識しながら演奏できるようにする。 ○1拍目を合わせることを意識できるようにする。	ア 音色 拍の流れや フレーズ

2	<b>いつでもあの海は</b> ○主旋律と響きをつくる旋律を重ねて合唱する。 ・旋律の重なり方の違いに気をつけて歌う。 ・音量のバランスや響きの違いに気をつけて歌う。 <b>リボンのおどり (ラ パンパ)</b> ○リコーダーや鍵盤ハーモニカで①⑤を演奏する。	○一斉学習を中心としながら、合唱部分のみをグループごとに合唱し、4つのアイテムについて客観的に捉える。 ☆旋律の重なり方を生かして、歌い方を工夫している。 【イ 発言内容の分析・演奏の聴取】  ○音色やフレーズを意識しながら演奏するようにする。 ○1拍目を合わせることを意識するようにする。	ア 音色 拍の流れや フレーズ
3	<b>リボンのおどり (ラ パンパ)</b> ○曲全体の感じをつかんで、①～⑦の旋律を演奏する。 ・節奏を聴いて、イメージを膨らませる。 ・リズム打ちをしたり、階名唱をしたりする。 ・楽器で演奏する。 ・各声部を順に重ねる。	○楽器編成は例示するものとする。 ○音色やフレーズを意識しながら演奏するようにする。 ○声部を順に重ね、各声部の役割が意識できるようにする。 ○1拍目を合わせることを意識するようにする。 ☆拍の流れにのって、音色やフレーズを意識して演奏している。 【ウ 演奏の聴取】	ア 音色 音の重なり 拍の流れや フレーズ
4	<b>リボンのおどり (ラ パンパ)</b> ○各声部の担当を決める。 ○主旋律のきこえるバランスを意識して演奏する。	○役割とともに、音色や音量的なバランスにも目を向けられるようにする。 ○主旋律がきこえるバランスに加え、各声部がどのようなバランスできこえると心地よいかも考えさせたい。 ☆各声部の役割を考えながら演奏の仕方を工夫している。 【イ 行動の観察・演奏の聴取】	ア 音色 音の重なり 拍の流れや フレーズ
5	<b>カノン</b> ○旋律の反復と変化を感じ取りながら聴く。 ○全体を通して気付いたこと、「リボンのおどり」の演奏に生かそうなことを記述する。	○冒頭の低音の旋律（通奏低音）が反復されるのに伴い、どのような変化が見られるのか、どのように印象が変わるのかに気をつけて鑑賞する。 ☆音の重なりや音色、強弱の変化旋律の反復や変化を感じ取って聴いている。 【エ 発言の内容の分析、ワークシートの記述の分析】	ア 音色 強弱 イ 音の重なり 反復
6	<b>リボンのおどり (ラ パンパ)</b> ○鑑賞の学習を生かして、表現を工夫する。 ・旋律を反復する回数を提示し、反復する際の旋律やリズムの重ね方や強弱等をグループで考える。 ・各グループで考えた楽器の重ね方や強弱等を全体で演奏する。	○工夫例を示す。 ○鑑賞で知覚、感受したことを合奏の表現の工夫に生かすようにする。 ○他のグループが演奏することで、自分たちの工夫の効果を確かめる。 ☆旋律やリズムの重ね方や強弱等を工夫している。 【イ 行動の観察・発言の内容】	ア 音色 旋律 強弱 音の重なり 拍の流れや フレーズ イ 反復 変化
7	<b>リボンのおどり (ラ パンパ)</b> ○各グループが考えた楽器の重ね方や強弱等を生かして全体で演奏する。 ・前時に考えた各グループの工夫を生かして、全体で演奏し録音する。	○様々な楽器の重ね方や強弱等を楽しみながら演奏するようにする。  ☆音楽表現のよさを感じ取りながら、友達の演奏を聴いたり、演奏したりしようとしている。 【ア 行動の観察・ワークシート】	ア 音色 旋律 強弱 音の重なり 拍の流れや フレーズ イ 反復 変化

7 本時の学習指導（5／7時）

(1) 目標 反復される旋律に関心をもち、音の重なりや音色、強弱の変化を感じ取って聴く。

(2) 展開

学習内容 ・学習活動	学習内容 [共通事項]	・指導上の留意点 ☆具体的評価規準【評価方法】	時間
1 リズム遊びをしたり、既習曲を歌ったりして、学習の雰囲気をつくる。 2 「カノン」の低音の旋律を歌う。 3 本時の学習課題を知る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>既習曲を演奏し、学習への意欲づけを図ると共に旋律の動きと強弱の関わり等を想起できるようにする。</li> <li>姿勢、呼吸、口形、表情、口の中、声の大きさ、発音等歌声を響かせるために大切なことに気付くようにする。㊸㊹</li> <li>「カノン」の低音の旋律を口ずさんだり、楽器で演奏したりして本時の学習の導入を図る。</li> </ul>	3' 2'
2つの「カノン」を聴き比べよう。			2'
4 旋律の重なりや変化を感じ取って聴く。 (1) ヴァイオリンと通奏低音による演奏を聴く。 ・冒頭の数小節を聴き、低音の旋律の反復を感じ取る。 ・カノンについて知る。 ・1～26小節目を聴き、旋律の重なりを感じ取る。 ・楽曲全体を味わって聴く。 (2) 吹奏楽による演奏を聴く。 ・1～26小節目を聴き、音色や強弱の変化を感じ取る。 ・楽曲全体を味わって聴く。	[共] 反復 [共] 音の重なり [共] 音色 [共] 強弱	<ul style="list-style-type: none"> <li>「リボンのおどり」と同様に旋律が反復されていることに気付くようにする。</li> <li>この後、音楽がどのように変化するか考えさせることで曲想の変化への期待をもたせる。</li> <li>聴く前に予想したことを楽曲を聴いて確かめられるようにする。</li> <li>楽譜を提示し、次々と新たな旋律が展開されることに気付くようにする。</li> <li>旋律の反復や変化による印象の変化を音楽の言葉を使って表現できるようにする。</li> <li>(1) で聴いた演奏との違いを音楽の言葉を使って表現できるようにする。</li> <li>新たな旋律が異なる音色で重なったり、強弱が変化したりすることで受ける印象がどのように異なるかを言葉で表せるようにする。</li> <li>音の重なり、音色や強弱の変化を感じ取りながら聴き、気付いたこと、感じたことやアンサンブルに生かせそうなことをワークシートに記入するようにする。</li> </ul>	38'
☆音の重なりや音色、強弱の変化を感じ取って聴いている。 【エ 発言の内容の分析、ワークシートの記述の分析】 A 音の重なりや音色、強弱の変化を感じ取って聴き、楽曲全体の印象の違いを言葉で表している。 B 音の重なりや音色、強弱の変化を感じ取って聴き、印象の違いを言葉で表している。 C 音の重なりや音色、強弱の変化を感じ取って聴き、印象の違いを言葉で表すことができない。 ◇Cと判断される児童への働きかけ 音色や強弱が変化している部分を具体的に示し、受ける印象について共に考える。			
6 本時のまとめをする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめをするとともに自己の学習の成果を振り返る。</li> <li>本時の学習の成果を賞賛し、次時への意欲付けを図る</li> </ul>	

# カノン (パッフェルベル作曲)

5年 組〔

〕

♪ 2つのカノンを聴き比べよう。

演奏形態	①	②
冒頭の旋律が くり返されると		
感じたこと		

♪ 全体を通して、気づいたことや感じたことを書こう。

♪ 「リボンのおどり」の合奏に生かせそうなことを書こう。

1 題材名「アレンジを工夫してアンサンブルを楽しもう」

2 題材について

- (1) 生徒の実態（略）
- (2) 題材設定の意図

本題材は学習指導要領との関連A表現（1）ウと（3）アに即して進めていく。「こげよマイケル」は8小節と短く、授業の中で繰り返し演奏が可能である。またメロディラインはとてもシンプルで、基本的な和音の構成でできており、これまでの学習を生かしながら多様なアレンジができる教材である。短い時間の中でも、試行錯誤を繰り返ししながら、表現の工夫ができると思われる。

本題材では、変声中の男子も自分の声と向き合いながら、歌いやすい声域を選ばせ、声の重なる響きを味わわせたり、曲想にあった表現を工夫させたい。

3 題材の目標

- (1) 声部の役割や全体の響きなどに関心を持ち、自分の声域をとらえながら音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。  
(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 音楽を形作っている要素を知覚し、声部の役割や全体の響きを感じ取って、音楽表現を工夫する。  
(音楽表現の創意工夫)
- (3) 声部の役割や全体の響きを生かして歌うための技能を身に付ける。(音楽表現の技能)

4 教材

- (1) 「こげよマイケル」 作曲者 スピリチュアル／黒沢吉徳編曲

5 学習指導要領の指導事項と[共通事項]ア・イの関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと 創作ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること	
[共通事項]	ア	旋律 テクスチャ
	イ	和音 拍子
具体的な学習活動	・自分の声域を選び、声部の役割と全体の響きを感じ取り、曲にふさわしい音楽表現を工夫していく。	・班で話し合いをし、1回目と2回目の表現を変え、強弱や速度を工夫していく。

6 評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題評材価の規準	①声部の役割や全体の響きなどに関心を持ち、自分の声域に関心をもっている。 ②音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①声部の役割や全体の響きを感じ取って、音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。	①声部の役割と全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけて歌っている。
1時	①	①	
2時	②		①

7 指導と評価の計画（略）

8 本時の学習指導（1／2）

（1）本時の目標

- ①声部の役割や全体の響きなどに関心を持ち、自分の声域をとらえながら音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。
- ②声部の役割と全体の響きを感じ取って、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

（2）展開

○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的評価規準（評価方法・手だて）
<p>1 導入（略）</p> <p>2 展開</p> <p>○「こげよマイケル」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つのパートをそれぞれ練習する。</li> <li>・自分はどのパートをやりたいかを決める。</li> </ul> <p>○班ごとに練習をする。 （女子3人男子5人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレンジシートを用いながら、自分の旋律を決定していく。</li> <li>・決めた音程がわからない場合は教えあいながら練習を進める。</li> </ul> <p>○ハーモニーが安定してきたら、強弱や速度を班で話し合いをしながら決めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班でいろいろと試してみて、一番よい表現のものを採用していく。</li> </ul> <p>3 まとめ（略）</p>	<p>○はじめに、全員が3つのすべてのパートを歌わせる。</p> <p>○歌いやすい音を、実際に確かめながらチェックさせる。</p> <p>○楽しい雰囲気、手拍子などをいれながら歌わせる。</p> <p>○班ごとの場所確認。</p> <p>○アレンジシートに書きこみながら、自分の旋律を決めさせる。</p> <p>☆声部の役割や全体の響きなどに関心を持ち、自分の声域に関心をもっている。 （ア① 活動観察・アレンジシート）</p> <p>○同じ旋律同士と一緒に練習させ、安心感をもたせる。</p> <p>☆声部の役割と全体の響きを感じ取って、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 （イ① 活動観察・アレンジシート）</p>

指導者 教諭 大木まみこ

1 題材名「日本の民謡に親しみ、声や音楽の特徴を感じ取ろう」

2 題材について

(1) 生徒の実態（略）

(2) 題材設定の意図

第1学年では、我が国の身近な郷土の音楽といえる民謡を取り上げ、様々な民謡を鑑賞することから、興味・関心をもたせたい。民謡とは、地方の民衆の間に生まれた後、人々に愛唱され、その土地の生活や感情がとけ込んでいる、素朴な歌謡のことである。口伝えによって今日まで歌い継がれたこの民謡こそ、「郷土の音楽」といえよう。しかし、民謡は身近とはいえ、次第に人々の生活から離れてきているため、生徒たちが知っているものも数少ないと思われる。そこで、より多くの民謡に触れ、親しませたい。

民謡にふさわしい発声にも注目し、あかるい地声で埼玉県の代表的な民謡である「秩父音頭」を実際に歌いたい。秩父の生活に密着した歌詞をもとに、班で1～8番の歌詞を選ばせ、郷土埼玉についての理解も深めて行きたい。

3 題材の目標

- (1) 我が国の伝統的な歌唱である民謡を通じた歌唱活動に関心をもち、それらを生かして歌う学習に主体的に取り組む。
- (2) 民謡の声の出し方の特徴や雰囲気を感じながら音楽表現を工夫し、どのように歌うのかについて思いや意図をもっている。
- (3) 民謡の発声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために、必要な技能を身につけて歌っている。
- (4) 我が国の伝統的な民謡の特徴から音楽の多様性を漢字って、解釈したり価値を考えたりし鑑賞している。

4 教材の選択（◎は本時で扱う教材）

- ・秩父音頭DVD（秩父音頭まつり実行委員会・秩父音頭保存会・皆野町商工会 企画・制作）
- ◎秩父音頭CD（同上） 1番ごとに区切ってあるCDに編集
- ・各地の民謡

5 本題材で主に扱う[共通事項]と学習活動のかかわり

[共通事項]ア	音色	リズム	旋律
[共通事項]イ		拍子 間 拍	
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民謡の歌い方の発声の特徴を感じ取る。</li> <li>・地域による民謡の特徴を感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お囃子のリズムを感じ取る。八木節様式、追分様式の違いを知る。</li> <li>・言葉の特徴や間合いを感じ取って表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こぶしや産字が生み出す旋律の抑揚を感じ取る。</li> <li>・こぶしの仕組みや、産字の感じをとらえ、表現して歌ってみる。</li> </ul>

6 題材の評価規準・評価計画（3時間扱い）

(1) 評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①民謡の発声や言葉の特徴、に関心をもち、それらを生かして音楽表現を工夫して歌ったり、鑑賞したりする学習に主体的に取り組もうとしている。	①声の音色、拍節的なリズム、コブシや産字などによる旋律装飾などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じようとしている。 ②民謡の発声や言葉の特性を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①民謡の発声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な音楽表現の技能を身に付けて歌っている。	①拍節的なリズム、コブシや産字などによる旋律装飾などそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、音楽の多様性を感じ取って解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。
1時		①		①
2時	①			(①)
3時		②	①	(①)

(2) 題材における学習評価計画（★が本時）

7 指導と評価の計画（3時間扱い）

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
	〈第一次のねらい〉・民謡に関心をもち、意欲的に取り組む。・民謡の特徴を味わう。	
1	<p>○今日の一曲「ソーラン節」</p> <p>○民謡の特徴の理解を深める。</p> <p>・ソーラン節（労働歌）の動きを体験し、なぜ動きがあるのかを考える。八木節様式と追分様式を確認する。</p> <p>○「秩父音頭」のイメージを膨らませる。</p> <p>・感受したことを学習プリントにまとめる。</p> <p>○民謡の特徴を味わう。</p> <p>・民謡を聴き、拍・旋律・強弱など気付いたことを学習プリントに記入する。</p> <p>・特徴ある言葉に印をつける。</p> <p>・産字やこぶしについて感じ取る。</p> <p>・秩父音頭の歌詞の確認をする。</p> <p>・1番の旋律を全員で歌い、合いの手も入れる。</p> <p>○自己評価する。</p>	<p>○体育祭でも踊り、生徒には馴染みの曲であるが、北海道の過酷な漁から生まれた労働歌であることに注目させる。</p> <p>☆拍節的なリズム、コブシや産字などによる旋律装飾などそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、音楽の多様性を感じ取って解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。</p> <p>（エ① 評価カード、学習プリント）</p> <p>○こぶしや産字、民謡が生まれた背景について理解し、西洋の発声との違いを考えさせる。</p> <p>☆声の音色、拍節的なリズム、コブシや産字などによる旋律装飾などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じようとしている。</p> <p>（イ① 学習プリント）</p>
	〈第二次のねらい〉民謡の特徴を味わい、工夫しながら表現する。	
2	○今日の一曲「沖縄民謡」	○沖縄音楽の独特な節回しの雰囲気に注目させて

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「秩父音頭」の特徴を学習カードで確認する。</li> </ul> <p>○民謡の特徴を生かして、表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4班編成で、1～8番の歌詞のもつイメージについて伝え合い、歌詞を聴き取り、産字やこぶしの場所を整理して、どのように歌いたいかをプリントや発表用画用紙にまとめる。</li> <li>・1～8番のどれかを選び班で練習をする。</li> </ul>	<p>聴かせる。</p> <p>☆拍節的なリズム、コブシや産字などによる旋律装飾などそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の多様性を感じ取って解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している（エ①評価カード）</p> <p>○CDを何度も聴き、歌詞を書き写させる。その際に、産字の発音に注目させる。</p> <p>☆民謡の発声や言葉の特徴、に関心をもち、それらを生かして音楽表現を工夫して歌ったり、鑑賞したりする学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>（ア① 学習プリント）</p>
	<p>〈第三次のねらい〉・民謡の特徴を生かして、「秩父音頭」の曲想を味わい、演奏発表する。</p> <p>・お互いの演奏を聴き合い、評価し合う。</p>	
3 ★	<p>○今日の一曲「民謡の特徴を出している J-POP」（曲は未定）</p> <p>○曲種に応じた発声</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋の発声で既習曲を歌唱する。</li> <li>・前時の復習として、特徴ある声の出し方で、様々な要素を取り入れ、「秩父音頭1番」を歌う。</li> </ul> <p>○曲にふさわしい表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班で選んだ1～8番の練習をする。</li> <li>・班発表をする。</li> <li>・仲間の演奏発表を評価し合う。</li> <li>・民謡のまとめをする。</li> </ul>	<p>○島唄の特徴をとらえた J-POP の雰囲気を味わわせる。</p> <p>☆民謡の発声や言葉の特性を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（イ② 観察、学習プリント）</p> <p>☆民謡の発声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な音楽表現の技能を身に付けて歌っている。（ア① 発表、学習プリント）</p>

## 8 本時の学習指導

- (1) 目標 民謡の特徴を生かして、「秩父音頭」の曲想を味わい、演奏発表する。
- (2) 本時で主に扱う[共通事項]:ア 音色・リズム・旋律 イ 拍子 間 拍
- (3) 展開 (3/3時)

学習内容 ・学習活動	□内は、学習活動に即した評価規準、 指導上の留意点 (○) 評価方法[ ] △努力を要する生徒への支援	時間
1 今日の一曲「民謡の特徴を出している J-POP」(未定)を聴く。 ・評価カードへ感想を記入する。 ・どのように感じたか意見を言う	○島唄の特徴をとらえた J-POP の雰囲気を味わわせる。	5
	<p>期待する生徒の感想</p> <p>コブシ、産字、ハリがある声、裏声の使い方が独特</p>	
2 曲種に応じた発声 ・西洋の発声で既習曲を歌唱する。(野ばら)	○民謡を歌う前に、自分自身の声の出し方を比較できるように、ドイツ語の発音と、西洋の発声を意識させる。	5
	○民謡の唄い方を復習してから秩父音頭の1番を全員で唄うようにする。	5



## 1 題材名「ドイツ歌曲に挑戦」

### 2 題材について

#### (1) 生徒の実態

真面目で素直な生徒で、指示されたことは一生懸命に取り組む。授業中の注意や演奏上のヒントを自主的に教科書に書き込む生徒も多い。その一方で、積極的に自由な表現をしたり、より感動する演奏を目指して練習したりといった姿勢はあまりみられない。歌唱では「音が高い」と感じるとすぐに1オクターヴ下げて歌ってしまうことがある。

#### (2) 題材設定の意図

本題材は学習指導要領との関連A表現・歌唱に即して進めていく。

ゲーテの「野ばら」の詩は世界中で愛され、多くの作曲家がこの詩に作曲、その数は150を超えるといわれている。

本題材では、ドイツ語の発音や、音楽表現するために必要な発声技能を身につけさせたい。また、シューベルトとヴェルナーの「野ばら」の音楽の違いを味わわせたい。

### 3 題材の目標

- (1) ドイツ歌曲に関心を持ち、主体的に歌唱活動に取り組ませる「音楽への関心・意欲・態度」
- (2) 曲想や歌詞を理解し、楽曲にふさわしい音楽活動を工夫させる「音楽表現の創意工夫」
- (3) イメージを持って音楽表現するために音に必要な発声・ドイツ語の発音などの技法を身につけ、創造的に表現させる「音楽表現の技能」

### 4 教材

- (1) 「野ばら」 作曲者 F. シューベルト
- (2) 「野ばら」 作曲者 H. ヴェルナー

### 5 評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	①ドイツ語の言葉の響きに関心を持って取り組んでいる。 ②楽曲に合う声の出し方や、言葉の響かせ方に関心を持って取り組んでいる。	歌詞の内容を理解し、音楽表現に生かしている。	①ドイツ語の正しい発音で歌っている。 ②楽曲にふさわしい発声で表現している
1時	①		①
2時	②	○	②

### 6 指導の評価と計画（略）

7 本時の学習活動

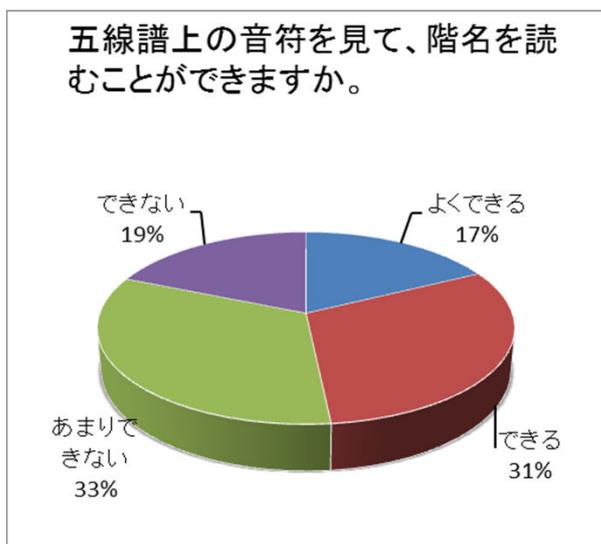
(1) 本時の目標

シューベルトの「野ばら」のメロディを覚え、正しい発音で歌唱する

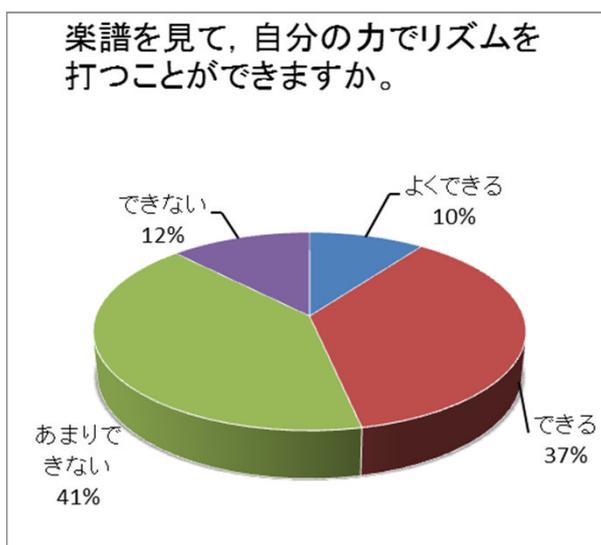
(2) 展開

○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的評価規準（評価方法・手だて）
<p>1 導入（略）</p> <p>2 展開</p> <p>○ドイツ語の雰囲気を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語の挨拶、他</li> <li>・ベートーヴェン「第九」（抜粋）鑑賞</li> </ul> <p>○シューベルト「野ばら」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模範演奏を聴く（CD）</li> </ul> <p>○発音練習と意味の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントから発音の特徴や詩の意味を理解する</li> </ul> <p>○音とり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メロディに言葉をつけて歌う</li> </ul> <p>○歌詞唱（ハ長調）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通して歌う</li> </ul> <p>○表現を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽記号の意味を確認しその効果を考える</li> </ul> <p>3 まとめ</p> <p>○歌詞唱（変ホ長調）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の発音や意味、曲想に注意して歌う</li> </ul>	<p>○身近な挨拶、日本語になっているドイツ語などを通してドイツ語の響きに慣れる</p> <p>○作曲年代や同時期の作品、「歌曲の王」と呼ばれることなどに簡単に触れる</p> <p>○ホワイトボードを使用し、生徒が前を向いてしっかりと大きな声を出せるようにする</p> <p>○ドイツ語独特の発音（ウムラウト、ei/eu/ie、st/sp、ch）など重点的に説明、練習する</p> <p style="text-align: right;">☆ア－①（観察）</p> <p>○区切りながら、メロディ、リズム、発音を丁寧に確認する</p> <p>○ハ長調で音取りをする→最高音[C]（教科書は変ホ長調）</p> <p>○音楽記号の確認をする</p> <p>○不十分な部分を再確認する</p> <p style="text-align: right;">☆ア－①（観察）</p> <p style="text-align: right;">☆ウ－①（観察）</p> <p>○ナチュラル、フェルマータ、リタルダンド等の有無による印象の変化を考えさせ、発表させる。</p> <p>○音域が高くなるため、発声に注意させる</p> <p>○学習した内容に注意しながら全体を通して歌唱させる</p> <p style="text-align: right;">☆ウ－①（観察）</p>

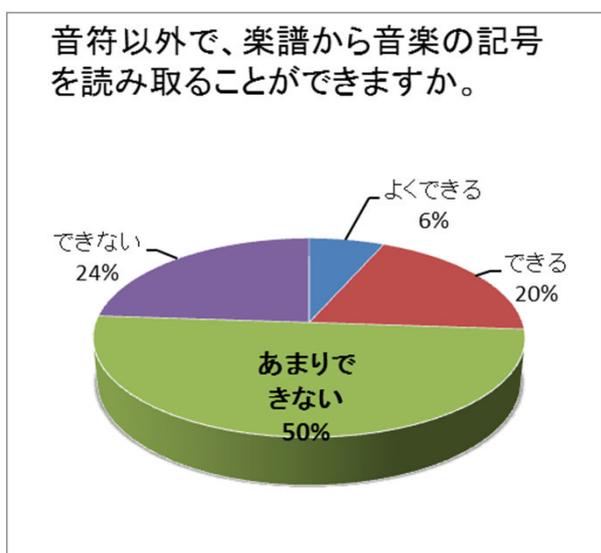
《アルトリコーダーの指使い等の指導改善》のアンケート資料



設問	問16
内 容	五線譜上の音符を見て、階名を読むことができますか。
	よくできる 18%
	できる 31%
	あまりできない 33%
	できない 19%

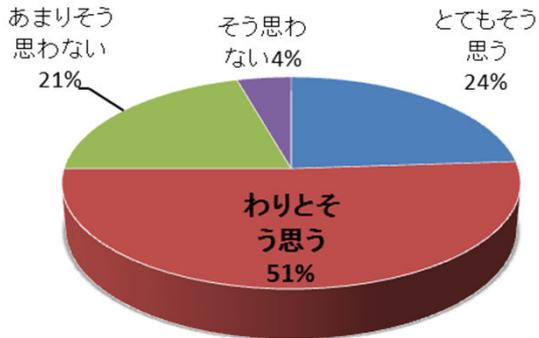


設問	問17
内 容	楽譜を見て、自分の力でリズムを打つことができますか。
	とてもそう思う (よくできる) 10%
	わりとそう思う (できる) 37%
	あまりそう思わない (あまりできない) 41%
	そう思わない (できない) 12%



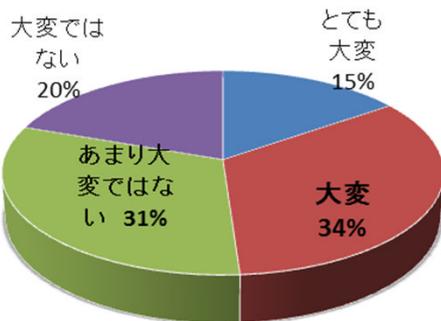
設問	問18
内 容	音符以外で、楽譜から音楽の記号を読み取ることができますか。
	とてもそう思う (よくできる) 7%
	わりとそう思う (できる) 20%
	あまりそう思わない (あまりできない) 50%
	そう思わない (できない) 24%

ソプラリコーダーを演奏することは好きですか。



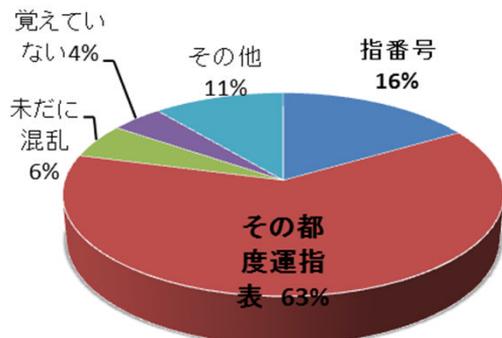
設問	問19
内 容	ソプラリコーダーを演奏することは好きですか。
とてもそう思う	24%
わりとそう思う	51%
あまりそう思わない	21%
そう思わない	4%

ソプラリコーダーの指使いを覚えるのが大変でしたか。



設問	問20
内 容	ソプラリコーダーの指使いを覚えるのが大変でしたか。
とても大変	15%
大変	34%
あまり大変ではない	32%
大変ではない	20%

どのようにソプラリコーダーの指使いを覚えましたが。



【その他の例】  
※友達や姉姉に聞く ※やっていくうちに自然と

設問	問21
内 容	どのようにソプラリコーダーの指使いを覚えましたが。 【①指番号で覚えた ②その都度運指表を見て覚えた ③未だに混乱している ④覚えていない】
指番号	16%
その都度運指表	63%
未だに混乱	6%
覚えていない	4%
その他	11%